

シャキット情報

NO. 121

2011・3・27 発行

編集 事務局

東日本大震災に思うこと

中林 晶子

3月11日、大震災が起き、東北・関東沿岸部は壊滅的な被害を受けた。地震と津波によって多くの命が奪われ、今なお数千人の行方不明者がいる。震災直後、福島原発で事故が起きた。安全でクリーンとうたわれていた原発から煙があがり、あっという間に見るも無惨な姿になった。

地震は防げなくても、原発事故は人災だ。人災を起こした責任は私にもあると感じながら、日々流される震災のニュースに心が痛んだ。私だけではなく、日本中、いや世界中の人々が心を痛めたに違いない。

私のまわりでも、心痛めた人たちが「家にあるお米や毛布を届けたい」、「布ナプキンをつくって送ろう」などと提案しはじめた。そして、「温かいご飯を食べることに罪悪感を感じる」と言いだした。気持ちはわからないでもないが、私はどの意見も「違う」と感じた。

では、なにをしたらいいんだろう？と自分自身に何度も問いかけてみた。

私の出した答えは「私たちの地域で人災を起こさない取り組みをすること」である。具体的には、志賀原発を止め、真に安全な自然エネルギーに転換してほしいと伝えること。これまで私は心の中で「原発はイヤ」と思い続けてきたが、電力会社に伝えたことはなかった。これからは、きちんと伝えなければと思う。震災が起きてからでは遅い。

私はホームレス支援をしているが、先日の炊き出しに「原発で働いたことがあるよ」という人が3人もいた。彼らは「原発は危険じゃない」と言った。すっかり洗脳されていた。もちろん彼らが悪いのではない。安全なところにいながら、危険な仕事を「使い捨て労働者」に行わせるために、洗脳した電力会社の幹部が悪いのだ。

私にとってのホームレス支援の意義は「NOと言える労働者」を増やすこと、つまり危険な仕事を断っても生きていけるシステムをつくることだ。システムをつくっておけば、危険な原発で働かなくてもすむし、戦争だって行かなくていい。人間は生活がかかると、危険だとわかっているにもかかわらず働かざるを得なくなる。「NOと言える労働者」を増やすことが日本の安全につながると私は考えているので、これからもホームレス支援を続けていこうと思う。

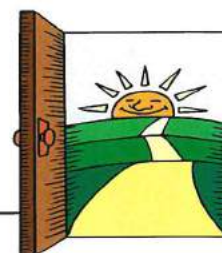
最後に、政府は今回の原発事故を国民にきちんと伝えていないと感じた。このことは、被災していない私たちが先頭にたって問題にしなければならない課題だと思う。普段通りの生活に罪悪感を感じている場合ではない。きちんと食べ、きちんと寝て、自分の頭を働かせ、取り組まなければならない課題は山積している。

まずは、下記の講座に参加して、皆さんと一緒に考えたい。

講演 福島原発事故からみえてくるもの～私たちにできることを考える～

とき 4月10日(日) 13:30～16:00

場所 自治労とやま会館301 (詳細はチラシ参照)



《4月全体会予定》 皆さん、集まりましょう！！

4月17日(日) 10:30～ サンフォルテ 全体会(午後 情報122号印刷発行)

連絡先 Tel&Fax : 山本夕起子(0766-52-3596)、中林晶子(090-2032-2348) 事務局 izusuga@yahoo.co.jp

活動場所: サンフォルテ(富山市湊入船町6-7) 076-432-4500

高岡市男女平等推進センター(高岡市末広町1-7ウイング・ウイング 高岡6階) 0766-20-1810

会費(年間2000円、情報・通信費等)1部200円 振込み先: 郵便振込 00780-9-75052 シャキット富山35

2月全体会報告

【経過報告】



日付	活動内容
2月 5日	「市民協働 プラットホームの構築」団体紹介HPに申請
9日	第13回Eプロ会議
23日	働き方プロジェクト・夏野射水市長との意見交換
//	Eネット2月定例会
27日	2月全体会 シャキット情報120号印刷発行
//	「別姓訴訟を支える会・富山」発会と報告会

【2月議題】

1. 「政治参画プロジェクト」(磯辺/青木/内山/津本/北条/橋本/伊藤)

柴田陽子県議の2月議会で一般質問の際「DV防止対策」について・知事とNPOとの話し合いの場を設けることについて質問を依頼

2. 「働き方プロジェクト」(高木/青木/内山/北条/中林/村藤/山本)

2/23(水)夏野射水市長との意見交換(高木・北条・山本・中林参加) シャキット情報No.120の5P参照
次回は、南砺市長を予定

3. 「Eネット」について(橋本・山下)

*「Eフェスタ2010」報告書発行 各グループに5冊配布*次年度の2011フェスタメイン事業企画募集へシャキットは応募しない*市長との話し合いについては、秘書課に聞いてもらう

4. 別姓訴訟を支える会・富山(山本/塚本)

*発会と報告会 2/27(日)14:30~呼びかけ人、会員募

集中*3/8など、機会があれば、アピール

5. 3月8日国際女性デーについて(政治参画プロジェクト)

*全国レベルで行われる4年に一度のキャンペーンにはならなかった*Nプロ主催、シャキット共催*チラシ配布(300枚印刷)*ゲストスピーカー野入美津恵さん(旧大山町議・おらとこ施設長)*県議会選挙に立候補予定の「井加田まりさん」・「はらだ清美さん」参加*塚本さんから「別姓訴訟」への支援呼びかけ

6. 次年度(2011年)に向けて

・世話人について・事務局について・プロジェクト活動について3月全体会で決める

7. サンフォルテフェスティバルについて(山本/山口)

6・25~26(土・日)*WSは、なのの会と共催する*展示 シャキット10年間を振り返る展示はどうか?→3月中に話し合い日をもうける。

(須賀泉美)



Eネット2月定例会報告

2月23日(水) 13:30~
高岡市男女平等推進センター交流室
出席:Eネット9名
センターより1名

【協議事項】

1. センターより

活動団体の登録更新申請の取り扱いについて...メールアドレスを登録している団体にはメールで無い団体は〒で発送。3/18締め切り

2. 「Eフェスタ」について

●「2010」報告書、完成。

各団体5部配布。欠席団体にはボックスに入れました。残りはセンター倉庫に保管。5冊以上ほしい団体は必要部数を、カーテンコールの佐野まで連絡。

●「2011」について

メインイベントについて 2011.9.4 候補...①被爆ピアノの池辺幸恵さん ②ルワンダから亡命してきた女性 ③公共哲学専攻の小林正弥
次回の第1回Eプロ会議でおおよその線を確認。企画がある団体は、それまでに申し出のこと。

第1回Eプロ会議3月 1日(火)午後7時30分~

3. 事業

●学習支援講座「ファシリテーター講座」振り返りシート参照

第2弾をぜひ来年度も計画してほしい。具体的に、テーマを決めて取り組んだらよいと思う。など

●市長との話し合いに向けて

テーマ 「高岡市の協働について」他 時期は、なるべく早い時期にセンターから働きかけてもらう

4. 次年度について

●次年度事務局について...男女参画推進委員・すすらん・カーテンコールは留任了承、10年度の事務局担当の方でまだ留任できる方、新規にまだ1度も担当されていないグループの方へ声をかける。事務局で話し合っ、新年度の担当を決める。

(橋本悠紀子)

国際女性デー

「女性と政治」

とき 3/8 (火) 13:30~

ところ 高岡市男女平等推進センター

<http://npro.takaoka.hometown.jp/index.php?itemid=85>

主催 NPO法人 Nプロジェクトひと・みち・まち

共催 シャキット富山35

参加者 25名

NPO法人 Nプロジェクトひと・みち・まちは、毎年「国際女性デー」に集会を開いています。今年で4回目となります。

今年は、シャキット富山35が共催しました。



これまで続けてきたキャンペーンとしての形は出来ませんでした、とても有意義な取り組みだったと思います。

まず、ゲストスピーカーの野入美津恵さん（NPO法人「おらとこ」理事長）に話してもらいました。野入さんは、旧大山町町議を二期つとめ町長選に挑戦したが落選、公約どおり富山型ディーサービス「おらとこ」を設立されました。58才で準看護師の免許を取り、現在は全国各地で講演しておられることなど、ユーモアを交えてテンポよく語られました。その後、別姓訴訟の原告である塚本協子さん、県議会議員選挙立候補予定者の井加田まりさんと原田清美さんの3人が自分の思いをアピールし、参加者全員が1分間リレートークを行いました。それぞれが活動や生活の中から気づいたことやいつも思っていることを熱く語りました。今後は、一人ひとりが「生活全てが政治だ」ということを、地域の集まりで話したり子どもたちに話しかけていこうという声があがりました。初めて高岡市男女平等推進センター長の参加があり、政治参画の大切さを話し合いました。

もう随分前になってしまった自分の政治生活。久し振りに力を込めて語らせていただいた気がする。

立候補したのは、もう16年も前になってしまう。とは言え、世の中は少しも変わっていない気がするが？ 偏見だろうか。

政治の世界は今も男性社会・・・と言っても、いい過ぎではないだろう。

地方においては市町村合併により、なおのこと女性が立候補しにくくなった上、当選も難しくなっているように思う。政治風土が変わらない限り、クオータ制がない日本においては、女性議員の比率が上がるどころか、半分なんて夢のまた夢だろう。が、だからこそ政治から目をそらさないで、地に着いた活動をしていかなくては行けないのではないだろうか。

政治教育も話に出た。

私は、小さい頃からしっかりと政治教育はするべきだと思っている。幼稚園（保育所）からでもいい。小学校になれば、必須科目として入れるべきではないかとさえ考える。政治は生活そのものであることと、一票の大切さを子どもの頃から認識してもらおう。

政治教育と、政党教育は違うと思っている。

日本の中では、その違いが余り語られない。政治を語ることも、禁止されてしまっている気がするが？ 子どもの頃からしっかりと政治教育が根付けば、政党教育にも個人の自由として学ぶ場はあってもいいと思う。

私には、もうそれほど時間は残されていない。

自分が生きている間に、子どもたちの会話に日常茶飯事に「政治」が出てくるようになれば、先行きが少しは明るくなるのかな？と、老いてきた自分に言い聞かせている。

話しながら自分の中に、16年も前の記憶がよみがえり、血が騒ぎ出そうとしていた。

議員は「面白く、楽しい」。1人でも多くの人が、「面白くて楽しい」議員生活を体験して欲しいものである。

我こそは・・・と、少しでも多くの人が手を挙げて、「いい政治」を目指して欲しい。

女たちよ、立ち上がれ!!!

そうしたら、偏見を持たずにみんなで応援しようではないか・・・。

野入美津恵

お話の中で一番印象的だったのは、女性では地元の支持が得られず、応援に来てくれたのは、いつも余所からの人たちだったこと。8年間の議員活動を一生懸命に勤めたのに、理解されることなく、町長選での得票の少なさに、力が抜ける思いだったとお話です。政策論争ではなく、「女のくせに」と言う理由で投票してもらえない、しかもそれが女性から投票してもらえないことの虚しさです。

今回のリレートークでは、野入さんのような経験者以外に、これから議員に立候補を考えている女性が、二人参加しておられ、さらには、旦那さんの方が立候補を予定されている人もおられました。この人たちに共通した悩みとして、女性が政治に関わると、政策ではなく、良くも悪くも家族の評判ばかりが話題になる。なぜか突然、旧態然とした良妻賢母を求められるようなのです。

僕自身、これからの日本の政治には女性の感覚が大切だと思い、女性の政治参画を促す活動には、積極的に関わってきたのですが、富山県内のほとんどの有権者は、そうは思っていないようなのです。ある人は、日本では女性議員が多い地域ほど改革が進んでいる！と紹介しておられましたが、それは事実なのだろうし、有権者の半分が女性でも女性議員が少ないのは、女性の頭の固さでしょう。

男性の硬直した考え方や価値観が、政治社会を行き詰まらせ、人々の暮らしに閉塞感をもたらしている、と考えていたのですが、この硬直した思考は、男性ばかりか女性もそうだったということ。口先では何でも言えますが、すべて他人事で自分は何もしない、人を批判することばかり上手で、自分では何もしない人たちが増え、すでに挫折している男権中心社会を、変革することも出来ないのです。

僕がシャキットの活動に関わるようになって、もう5年になりますが、気がつけばこの活動は、単に女性の問題に関わっていると言うより、何でも他人事にしている、口先人間との闘いだったのかも知れません。野入さんも、新たな立候補者や立候補者夫人も、政策以前に、こうした似非教養人との闘いをする必要があるのかも知れなくて、それが日本社会の閉塞状況を、作っているのかも知れないのです。

<http://blogs.yahoo.co.jp/isop18/61734456.html> イソップ通信より抜粋



会場にて「女性と政治」参加者

「懐かしい未来」を考える講座 ご案内

毎年シャキットの皆さんの協力を得て企画実現している生涯学習センターの自遊塾講座ですが、今年は、これからの社会作りに鍵となる「懐かしい未来」を考える講座を用意してみました。以下のスケジュールにて学習しますので、ご参加ください。

5月28日：「サステナ」と循環型社会

7月2日：南砺市の「懐かしい未来」

8月27日：市民活動と協働社会

(各土曜日の13:30~15:30)

会場：ウイングウイング7階生涯学習学習室

参加費：全6回で2000円(24歳以下1000円)

参加申し込みの詳細は、県民カレッジ自遊塾まで。

富山市=県民カレッジ本部 講座受付係

電話 076-441-8401

高岡市=高岡地区センター 講座受付係

電話 0766-22-5787

申込締切は、4月22日です。ご案内 イソップ通信に案内があります。



(磯辺)

「2011年3・8国際女性デー 富山県集会」に参加して

■■ミモザの花と国際女性デー■■

今年の3・8国際女性デー富山県集会は8日午後6時30分から、富山駅前マリエ7階オルビスで約70名の参加で行われました。壇上にはミモザの花が活けられていました。国際女性デーを祝って、松島登志子さんからミモザの花が毎年贈られていました。松島さんとは1946年に初の婦人選挙権を行使して女性の衆議院議員39名が当選したときの1人で、北海道から選出された日本共産党の議員で、現役引退後は夫の郷里立山町に暮らしておられました。今年4月に100歳を迎えられますが、今年ミモザは彼女の意を汲んで、どなたが準備されたのだらうと思ひながら開会を待ちました。

■■介護保険が危ない！！■■

オープニングは、竹内佳代さんの愛をテーマにした3曲（シューマン、エルガー、いきものがたり）にうっとりしました。

記念講演は勝田登志子さんの「介護保険が危ない!!～安心を保障できる制度に～」でした。勝田さんは「認知症の人と家族の会」副代表、富山県支部事務局長をされ、厚生労働省社会保障審議会介護保険部会委員をされており超多忙の日程中、時間を調整してのお話でした。2012年改定法案について審議中の介護保険委員会では「学識経験者」と呼ばれる方々が机上の数字の辻褃合わせで意見を述べる中で、現場の声を代表する勝田委員が孤軍奮闘されている様子が解りました。署名などで応援することが重要だと感じました。

■■別姓訴訟、TPPと日本農業、医療介護・保育・教育現場からの悲鳴！！■■

交流の広場では、5人の方から報告・訴えがありました。

まず、塚本協子さんが、「塚本協子で生き塚本協子で逝きたい」と別姓訴訟に踏み切った経緯を話し、支援を訴えました。次いで農民連からTPPが日本農業を壊滅状態にすると資料を示し報告。医療現場から今も医師・看護師・介護士不足状態なのに2012年改定で本当の医療崩壊が始まるとの危機的状況の報告。保育士さんから「子ども・子育て新システム」が国・自治体が責任を負う現行の保育制度を放棄すると報告。学校現場から、親の失業など、家庭の貧困が子どもたちの学校生活に現れている具体例が報告され、どの報告にも心が痛み、生活者女性の出番だ！の思いを強く持ちました。

■■国際女性デーの伝統を引き継ぎ、政治を動かそう■■

20世紀初頭、アメリカの女性がパンと参政権を求めて立ち上がり、今では国連事務総長がメッセージを発表する全世界のとりくみとなり、日本でも政府がメッセージを発しています。国際女性デーの歴史を引き継ぎ、政治を動かさなければとの思いを強く感じました。 報告：本木英子



「八の日行動」ピラ配り

国際女性デーの3月8日、厳しい冷え込みの中、早朝7時20分から「八の日行動」朝ピラを、JR富山、高岡の駅頭で配布しました。1女性会議や富山県平和運動センターの仲間が中心になって、毎年3月8日、8月8日、12月8日の3回、「平和、暮らし、男女平等」をテーマに、その時々の課題を、市民に訴え続けています。

今回のピラには、「夫婦別姓訴訟への支援を」と、心をこめて配布しました。足早に通勤・通学を急ぐ人、コートのポケットに手をつこんだまま、ピラをとらない人も多いのですが、「必ず読んでね」と声をかけると、びっくりしたようにピラをとって記事を読んでくれる男子高校生もいて、一人でも多くの人に思いを伝えたいと、かじける指に息を吹きかけながらの行動でした。 報告：村藤 美枝子



参加報告

国際女性デー記念シンポジウム報告

「世界118位の現実：クォータは突破口となるか」

2011年3月8日（火） 於：上智大学

東北大学の辻村先生の20分の基調講演以外、シンポジスト8人+学生、「普通の市民」と合計10人が一人8分ずつ、「もっと女性を政策決定の場に」と語った内容の濃いシンポだった。

国の第三次男女共同参画プランは昨年12月に閣議決定された。「国の政治における女性の参画拡大」の具体的施策に「クォータ制の導入」と書かれ、国の公文書に始めて「クォータ」という用語が使われた。途上国がクォータによって女性議員比率を上げている現状からいえば、クォータを取り入れないと日本は世界ランキングからどんどん落ちていくであろう。

クォータとは国連の定義「暫定的優遇措置」の一つであるが、その基本は女性のための政治目標を達成するために女性をもっと政治職に登用して、「おかざり」にしない、という考え方である。方法としては、①国会議員の割り当て制度、②地方議会候補の割り当て制度（①②は憲法あるいは法律の規定となる）、③政党の意思（内規）による候補者の選定割り合いがあり、すでに実施している世界の約100ヶ国を見ても方法はまちまちである。2000年に韓国は国政選挙の比例区で女性50%、小選挙区は政党の努力目標と憲法に規定した。2010年までに女性議員は増加し、女性政策が推進されているなど、クォータの効果は顕著に見られる（申報告）。

政党の意思に任された場合、クォータは立候補者の割合となるので、当選者の割り合いではない。さらに、韓国の例からいえば、政党はその時の選挙状況などで変更するので、憲法あるいは法律による規定が望ましい。

とはいえ、「女性をもっと政治の場に」という主張すると、「女なら誰でもいいのか」「資質のある女性がない」「男への逆差別」だなどという反論が必ず起きるし、フランスがパリテを取り入れるときには「自由な主体である自分は男性/女性に区分できない普遍的なものである」という哲学的な論争もあった。反論するためには民主主義の原理原則、すなわち、多様な民意を議会に反映させるという考えであろう。「多様性」を持ち出すと「障がいのある人」「性的マイノリティー」にもクォータが必要なかと問う人がいる。将来そういう議論も起きるだろうが、女性という政治的な最大マイノリティーの声を反映できる議会にするためにはクォータ制という「劇薬」が必要で、そのために多くの人が声を挙げなくてはならない、というのが今回のシンポの結論であった。



翻って、2005年の衆議院選挙で「刺客」などの女性候補者が政党の意思によって43人の女性が当選した。また、2009年には「ガールズ」が政権交代の劇場に登場し、女性議員は史上初50人を超え54人になった。彼女たちは女性が暮らしやすい毎日をごせるための政策に努力してきたであろうか？政党幹部が「政策のために働くのはもう一度選挙に勝ってからだ」と言ったとか。女性を選挙の道具とみなしている政党の意思は、私たちが願う安全で平和な暮らしの実現をどう考えているのであろう。クォータを論ずるには、「政治」そのものを論ずる必要があるとしみじみと感じた。

大海篤子

「別姓訴訟を支える会・富山」発足と報告集会



2011年2月27日、「別姓訴訟を支える会・富山」発足と報告集会が富山県民共生センター「サンフォルテ」(富山市)にて開催されました。

塚本協子さんが選択的夫婦別姓制度の法制化を待ち望んできましたが、政治では動かないので司法に委ねる決意をされ、

2月14日、4名の原告とともに提訴されました。共に戦う弁護士団が結成され、原告団長である塚本協子さんを、塚本さんが生まれ育った富山で支援していくための会を設立いたしました。

会では、これまでの塚本さんの選択的夫婦別姓実現を目指して活動されてきた塚本さんの歩み、「なの会(選択的夫婦別姓の会富山)」の結成と活動、行動の歴史、支える会結成までの経緯が説明され、支える会の発足が承認されました。(「なの会」の結成と活動は、シャキット富山35の皆さんの協力があったことでした。ありがとうございました。)



引き続き弁護士団の竹下博将弁護士による講演「夫婦別姓訴訟提起の報告」があり、この裁判の意義・内容、従前の議論の状況について話を聞きました。別姓訴訟が公開の法廷で行われるのは初のことです。

竹下弁護士のお話によれば、憲法13条では氏名保持権が、同じく24条では婚姻の自由が保証されています。しかし現実には、婚姻届提出時には夫婦同氏が婚姻成立の要件となっています。氏名保持権と婚姻の自由が両立していません。また、政府は夫婦同姓強制が女子差別撤廃条約16条に違反すると国連から勧告を受けていますが、その事実を知らながら法の改正が放置されています。憲法、条約、判例を引用してのお話は、難しい言葉が並びましたが、竹下弁護士のかみ砕いたわかりやすい説明に会場一同が熱心に聞き入りました。

今後の裁判の見通しとして、数年間かかるとの話があり、事務局としては時間の長さのため息も出ましたが、「千里の道も一歩から」のことわざ通り、まずは正式に活動が始まったことに、感謝の気持ちもひとしおです。塚本協子さんからは、原告として裁判へ向ける想いが語られ、最後は応援の拍手が狭い会場に響きました。およそ50名の参加者は、原告団・弁護士団・支える会を代表する方々の熱い思いを直接感ずることができて、これから裁判を支援していく思いを新たにしたい一日となりました。

会では、裁判を支えてくださる賛同人を募っております。塚本協子さんの裁判勝利をめざして、一人でも多くの方のご支援を呼びかけます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

「別姓訴訟を支える会・富山」 代表 宮崎 さゆり、 事務局長 埜田 悦子

Address : 〒933-0833 富山県高岡市荒見崎 63、 FAX : 076-442-5215

e-mail : besseitoyama@gmail.com

〈年会費〉 一口 1,000円 (個人は1口以上、団体は3口以上、口数の制限はありません。)

〈振込先〉 郵便振替口座 00720-8-84681 口座名「別姓訴訟を支える会・富山」(払込手数料はご負担願います)



2月27日 発足会

活動報告

2010年度高岡市市民活動支援・協働推進事業

高岡いいまち！協働のまち！ 活動紹介フェスティバル

と き：3月5日（土）午前11時～午後3時

ところ：高岡市ふれあい福祉センター多目的ホール

上記のフェスティバルに「シャキット富山35」は展示で参加しました。内容は2009年5月に発行した富山県自治体職員組合へのヒアリング調査報告書の中の自治体労働組合回答一覧の展示です。

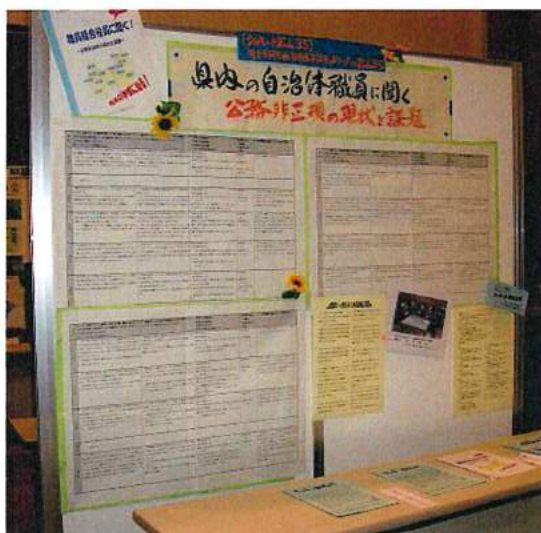
参加者の皆さんには、興味深そうに足を止めて見ていただきましたが、この調査には残念ながら高岡市が面談不可ということで載っていません。高岡市民の方にはちょっと説明がしにくかったこともありました。

このフェスティバルには、多くの高岡市内で活動、活躍するNPO、市民団体個人など、活動をアピールしたい人たちが大集合しましたので、ステージ発表が13グループ、展示団体が27グループもありました。今まで知らなかったグループも多くありましたが、特に若者の社会的自立のため

の総合的な相談窓口として、高岡地域若者サポートステーションを立ち上げたグループのステージ発表や展示ブースが印象に残りました。ただもう少し福祉関係の活動をしているグループの参加があれば、もっと内容が充実したように思います。

ステージでの子どもたちの合唱（親と一緒にグループもあり）はとても素晴らしく、会場のみんなが歌う場面もあり元気もらったように思います。協働についてあまり関心の無かったグループの交流が目的の事業として、まずは第一歩ということで良かったと思います。

報告：橋本悠紀子



情報+情報



① 「市民活動サポートセンター設立記念フォーラム」

日時：2011年4月2日（土） 午後3時～ 場所：サンシップとやま 1階ホール

② 「シフトエナジーとやま」発足に向けてのミーティング

日時：2011年4月3日（日） 午後1時～ 場所：サンフォルテ 304号室

③ 東日本大震災チャリティーイベント～いま私たちにできること伊達真人大作戦！～

てんつくマン×田中優 トークライブ

日時：2011年4月6日（水） 午後2時～8時45分

場所：富山市民プラザ2Fアトリウム

以上 全てのお問い合わせは山下まで 0766-23-1054

若者はっしん

■集まる・歩く■ ☆ピースウォーク金沢2011

平和を願って、祈り、歩きます。

集合場所 石川県中央公園 <http://bit.ly/huMKgz>

2011年3月20日(日) 13:00~15:30

生涯学習センター31号室

〈一人ぼっちにならず、集まりましょう〉

主催 ピースウォーク金沢実行委員会

■集まる・語る■ ☆ピースミーティング



- ◎ 東日本大震災と米英仏のリビア攻撃、2011年が世界的な大激動・大変革の年であることを示すかのような、真っ只中でのピースイベントとなりました。平和は、直接、戦争がない状態だけでなく、誰しもが、健康で文化的な生活ができ、差別や抑圧のない社会です。「選択的夫婦別姓」を求める声も、平和への一里塚そのものです。伊藤厚志
- ◎ イラク開戦8年目のピースウォーキング。憲法9条は世界の宝、などと印刷されたジャンパーをかかげる人、平和を歌う人、夫婦別姓で塚本さんもスピーチされた。
原発事故が発生した時、すぐにヨウ素をのむと甲状腺の発病を防げるというが、ヨウ素はどこにあるのかわからない。私は「とやまの配置薬」のように、年齢別にのむ量をきちんと書いて常備されていれば、警報の後に飲めばいいのではと思うと発言した。まずは日本の原発を廃炉にしたい。国民に安全だと言い続けてきた政府と電力会社は、福島原発の事故に対してどう責任をとるのだろう。しっかりと監視しなくてはならない。伊藤芽子
- ◎ 発言したい参加者は主催者側に申出て発言できるというので、11番目に並んだ。「いてもたってもいられない」と東北・関東大地震と福島原発を憂う発言が多く、9条あり、イラク8周年あり。その中で、「別姓訴訟の原告塚本協子です」の発言は異色なので、勇気が必要だった。でも、私を支えるようにして一緒に並んで下さった山下さん、芽子さん、山口さん、伊藤さんのお陰で思いきり2・3分訴える事が出来ました。チラシも大分減り、嬉しかった。ありがとうございました。「根っこは同じ」と励まして下さる参加者もあった。原発のワーク・呉羽の若者との出会い。マスコミにお礼を言うミルキーさん等々。なによりも、往復の車内での会話が楽しくって楽しくって……心が軽くなりました。素晴らしい1日を下さって、心から感謝しています。塚本協子
- ◎ 大震災で八戸が被災しているのに、日本最大の危険物貯蔵庫である「六ヶ所核燃料再処理施設」については報道されず、不安に思っていた。そこで鎌仲さんに質問したところ、「さいわい被害が無く炉を焼却するための動力として必要な石油も確保されている。近くに石油基地があり青森港も使用可能である」とのこと、一安心した。ただ冷却に年間50億円もの経費がかかるとのこと。こんな危険で金喰い虫の原発を一刻も早く停止させるように頑張ろう。山口和子
- ◎ 金沢で素晴らしい出身の家族、二人目の赤と富山の若者たち。反村さんが、知り合いのは楽しそうに活動しなと思っている。富山つくっていこうとい人でおにぎり持参の



会いがあった。東京から来られた富山県出ちゃんがおなかにいるとのこと。鎌仲さん原発のメッセージを送られた津幡町議の中お母さんだったので驚いた。金沢の人たちておられるので、つながっていただけらいいで鎌仲さんの映画上映や話し合いの機会をうことになったが、ぜひ、実現したい。5ドライブ、とてもよかった。山下清子

投稿

基金のご協力ありがとうございます!

◆中学生の一言から始まった募金活動が3月13日(日)10:00~12:00の間に行われ、83,831円の募金が寄せられ、16日(水)に責任

を持って赤十字社へ送らせて頂きました。ご協力頂きましてありがとうございました!高岡という被災地から遠い場所でも、それぞれが考え、行動することで何かしらのカタチにできるということを子どもたちの行動を通じて教えてもらった気がしています。これからも、自分たちにできる事を無理のない範囲でやっていければと思っています。ご協力ありがとうございました。



とやま311ネットについて

◆県内に避難してきた被災者の暮らしをサポート

するため県内の有志でつくるボランティアグループ「とやま311ネット」(富山市大町、久保大憲代表)が複数のNPO法人関係者が集まって結成しました。同グループでは、何も持たずに富山に避難してきた被災者に、県内在住者から寄せられた家財道具や物資を届けています。

これからは、もっと多くの方が富山に避難されることが予想されます。「家財道具や物資を提供してもいいよ。」という方がいらっしゃいましたら宮田(080-1957-3902)まで一報ください。宜しくお願いします!

以上報告:宮田 隼

「3.11」この日を日本人である私たちは永遠に忘れてはならない日になりました。大勢の人々が津波の被害で亡くなり、不明となっています。その後の福島原発の事故と放射能の恐怖。目を覆いたくなる現実。日本のウラン燃料使用は世界第三位(米・仏に次いで)、過密さでは世界第一位。かつ、世界有数の地震地帯でもあります。私たちはもう<原子力の恩恵>を避け、絶望を希望にかえる方向をはっきり示されたことを確信しなければならぬと強く感じます。

山本夕起子

私は原発について無知だった。今回のことで、これまでの誤解やマスコミ報道のウラ側など、いろいろなことを知ることができた。インターネットのおかげで、専門的な知識や的確な行動をする人たちと出会い、心をつなぐことができて嬉しかった。

富山でいつものように暮らしながら、自分の出来ることを考えよう・・・たよりになるのは信頼できる人のネットワーク。あらためて、コミュニケーションの重要性を痛感した。

山下清子

東北・関東大震災に寄せて

この度の地震に関連する一連のニュースには同じ国の出来事として、胸を痛めている一人です。この事態に色んな方に支援の動きが見られますが、一番大切なことは「相手がいてこそその支援」だと思っています。ついつい、手厚い支援をと張り切ってしまいがちですが、本当に求められている支援は「息の長い無理のない支援」だと思いますのでその点だけは押しずにできる事をできればと考えています。

宮田隼



あまりに突然の大惨事に、被災された方たちに、1日も早く、暖かな食事と眠れる場所をと祈らずにいられません。

しかし、原発事故は人災です。地震多発地帯の日本に原発は造るべきでないという反対の声を無視して、これまでの自公政権は原発をつくりつづけてきました。政府やマスコミは又しても「風評被害が深刻」「そんなに心配することはない」と、「もう、原発はやめよう」という声を封じ込めています。今こそすべての運動を1つに、「脱原発」へ集中しましょう。

村藤美枝子

福島原発で今何が起きているか-学習会に参加して

高木睦子

3月21日、午後3時から淡川典子さん（元能登原発訴訟原告団）を講師に自主の会主催が県民会館5F会議室で開催された。約40人の参加者でぎっしり。関心の高さを伺わせた。冒頭、淡川さんは、「何が起きているのか分からないとしか言いようがない。」と、苦笑しながら東電や政府の欺瞞性を指摘された。

まず、安全確保のために備えられてきたことがいくつかあるが放射能災害防止の三大原則は「止める、冷やす、閉じ込める」である。しかし、今回発覚した制御棒脱落の臨界事故は、いざというとき「止められない」可能性があることを示した。また、「多重防護」—五重の壁—が働くから大丈夫だったはず。しかし、現在大変なことが起きている状況である。

防護の5つの壁は、第1の壁—「燃料ペレット」—セラミック状に焼き固められ、直径、高さは1cmくらい。370個がジルコニウム合金の被覆管の中に積み重ねて入れてある。燃烧前は硬いが、燃烧するにつれポロポロに変化。

第2の壁—「燃料棒被覆管」—ジルコニウムは700~800℃になると水と激しく反応を始める。1300℃以上で激しい燃烧状態。融点は、1850℃。燃烧中の燃料棒の中心は2000℃位になる。冷却剤は280℃、被覆管の外側の温度は500℃くらいで、燃料の中心から被覆管の外側までは1cm弱。冷却がいかに重要か想像できよう。

第3の壁—「原子炉圧力容器」—どれだけの爆発力に耐えられるかは以下、※の表を参照。チェルノブイリ事故の最初の爆発力はNTN火薬換算で660kgから2トンというものまであり、2回目のものは200トンを超える評価もある。BWR（原子炉格納容器）の周りも底も管だらけで、溶接箇所は多い。これで「閉じ込め」がうまくいくか？

第4の壁—「原子炉格納容器」—暴走事故の爆発力を考えれば、とても壁とは呼べない。

第5の壁—「原子炉建屋」—もはや言うに及ばず。

原発は、人が一杯のお茶を飲むのにプールの水を全部湧かして飲むような無駄なもの。猛毒物質を生み出すだけに核兵器でも持つならいざ知らず、平和憲法下の日本には不要なものはず。その他、スリーマイル原発事故の乳児死亡率と死亡数、乳がん例数の変化なども数字で示された。体内被曝は小さな子どもほど、障害のおこる確立が高くなることも。これからのエネルギーについては、化石燃料が一番。2分の1から3分の1のエネルギーで無駄を省き今の生活ができれば。また、「放射能汚染された衣服をポリ袋に入れ、洗濯すると指導されていたのは正しい？」の質問に対し、「どれだけの汚染か不確かだが、基本的には洗い流すこととなっている。しかし、本当にそれで良いかどうかは、住民側がどれだけの値の汚染度か、なぜそれで良いのか等々納得いくまで聞いていくことが必要で、私たちの姿勢が大切」と。以上、たくさんの数値を示してのお話は、とても記録する暇もないことと併せて私の理解力では限界があった。印象に残ったことと、資料のある一部を記載したが、淡川さんには後日改めてご教示願いたいと思った。



※ 原子炉圧力容器と格納容器の破壊レベル（単位：TNT 火薬換算キログラム） 小出裕章作成

構造物	PWR	BWR
原子炉圧力容器	43~109	409~590
格納容器	73~170	45

《会計報告》

2011年2月28日現在

【収入の部】		【支出の部】	
・1月より繰越	47,602円	・シャキット情報 120号(製版等)	3,380円
・会費	6,000円	・全体会議(2/27)昼食代	1,000円
・折込み料	1,000円	・3月へ繰越	50,222円
収入の部合計	54,602円	支出の部合計	54,602円
※年会費未納の方は、ご協力をお願いいたします※ ++上記とは別に「特別会計」として 30,000円あります++			
会計 青木			



2011年度総会のご案内

5月21日(土)午後1時30分～

ウイング・ウイング高岡*高岡市男女平等推進センター

2011年、11年目にますます羽ばたくシャキット富山35
総会を開催いたしますので
どうぞご参集ください・・・

【編集後記】

今回は、編集作業中に東北関東大震災が起き、毎日なにやら心がざわつき落ち着かない日々を過ごしました。やはり心配なのは災害弱者といわれる子ども、高齢者そして女性です。3月8日は国際女性デーであり、あらゆる分野での決定の場に女性が少ない現状を(特に政治の場)どう変えていくか、各地で女性と政治キャンペーンが行われたばかりです。

この未曾有の災害に政治主導で立ち向かっていくとき、女性議員の力が必要だと思えます。復興には長い時間がかかるでしょうが、粘り強い支援をしましょう。

121号に原稿を寄せていただいた皆さまに感謝申し上げます。

橋本悠紀子

シャキット情報

NO. 122

2011・4・17 発行

編集 事務局

エネルギーを選択する

橋本悠紀子

3月11日の東日本大震災から一か月以上が経ちました。当初、東北関東大震災という言葉でメディアも書いていましたが、一か月近く経ってようやくこの震災の名前が決まったようです。このことからもいかに混乱していたかが見えてきます。

4月10日に富山では脱原発 緊急行動 in とやま「やっぱり原発なしでくらしたい！」の集会とデモ行進があり参加しました。子どもや若者たちふくめ様々な年齢の方たちと一緒に、満開の桜を見に来ている人たちにアピールできるようお願いつつ歩きました。

震災の当日から、地震よりも津波の映像をみてそのすごさに唖然としてテレビの前に釘づけの日々を過ごし、自然災害とはいえこれほどのことが起こることに身を震わせていました。その後福島第一原子力発電所の大惨事の情報が行きわたるようになってきました。

内閣府の官房長官の発表、原子力安全・保安院や原子力安全委員会からの発表、当事者の東京電力からの発表と情報が錯綜し、情報の受け手として混乱していました。情報発信の責任もあいまいだったし、原発の専門家の発言も自分の専門には詳しいだけで国民に理解してもらおうというスタンスではなかったと思いました。動き始めたら簡単には止められない原発ということさえ知らなかった無知を恥じるばかりです。

また、避難の指示も屋内退避から自主避難(自己責任)にしたり、原発に異常事態が起こるたび放射能の影響はただちに人体に影響ありませんと言う政府の対応にも不信感がつのります。今私たちは、この情報の洪水のなかで何が真実なのか見極める力が求められています。当然東日本大震災の復興と原発の放射能拡散への対応は、分けて考えなくていけないでしょう。

私たちにできることを考えるうえでも、きちんと情報を分析し、もし原発の廃炉を望むならば次のエネルギーをどうするのか考えなくてはなりません。いずれエネルギーについて多様な選択肢があることが必要になってきます。選択できるということが大事なのではないのでしょうか。

■お知らせ■

シャキット情報について、新年度から隔月発行ということになりました。詳細は2ページをご参照ください。皆さまからのご意見をお願いします。

《5・6月 予定》 皆さん、集まりましょう！！

5月21日(土) 13:30～ 「総会」 & 「学習会」 高岡センター

6月19日(日) 10:30～ 全体会 サンフォルテ(午後 情報123号印刷発行)

連絡先 Tel&Fax : 山本夕起子(0766-52-3596)、中林晶子(090-2032-2348) 事務局 izusuga@yahoo.co.jp

活動場所 : サンフォルテ(富山市湊入船町6-7) 076-432-4500

高岡市男女平等推進センター(高岡市末広町1-7ウイング・ウイング 高岡6階) 0766-20-1810

会費(年間2000円、情報・通信費等)1部200円 振込み先: 郵便振込 00780-9-75052 シャキット富山35

3月全体会報告

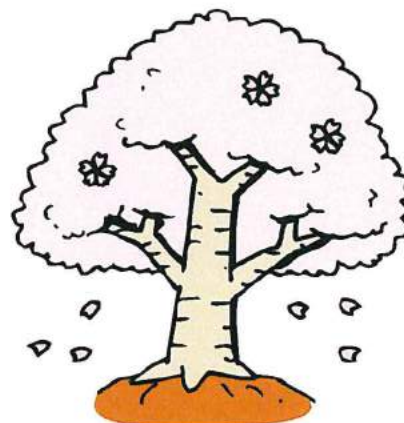
【経過報告】



日	付	活 動 内 容
3月	1日	サンフェス2011 WS・展示に応募
	5日	高岡市民活動フェスティバル(第1回) 展示参加
	8日	国際女性デー『女性と政治』 主催:Nプロ 共催:シャキット政治参画P.
	19日	「別姓訴訟を支える会・富山」 例会
	19日	「富山県母親大会」第一回実行委員会に参加
	23日	E ネット定例会
	27日	サンフェス2011 第一回運営協議会

【3月協議事項】

1. 「政治参画プロジェクト」(磯辺/青木/内山/津本/北条/橋本/伊藤)
 - ・今年度でプロジェクトを解散する
 - ・3/8「国際女性デー」のイベントの振り返り→シャキットは共催でき良かった。経費の3,600円は政プロ会計より支出
2. 「働き方プロジェクト」(高木/青木/内山/北条/中林/村籐/山本/橋本)
 - ・次年度は公務非正規プロジェクトの最終段階とする
3. E ネット -高岡センター登録活動団体ネットワーク- (津本/山下)
 - ・3月23日定例会 「Eフェスタ2010」会計報告/「Eフェスタ2011」メイン事業企画について話し合い
 - ・市長との話し合いについては未定(「協働」についての意見交換を提案)
4. 次年度(2011年)に向けて
 - ・活動について
 - ※これからも全体会は決定機関と位置づける
 - ※全体会での話し合いは決定・未定を明確にする
 - ※全体会報告の保存版は世話人代表が責任を持って出す
 - ※新年度からは月1回全体会を行う(サンフォルテ、高岡センター)
 - ・シャキット情報発行回数について
 - ※4月より偶数月に発行する(4月、6月、8月、10月、12月、2月)
 - ◆4/10(日)10:30～サンフォルテで拡大世話人会を開催する。
5. サンフォルテフェスティバル2011(6/25～26)について
 - ・シャキットWS→6月25日15:00～17:00 大会議室 *なのの会と共催(山本・山口)
 - ・テーマ:『選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対?』
 - ・展示:「シャキット富山35」10年間のあゆみ(青木・橋本・向)
6. 「別姓訴訟を支える会・富山」(山本、塚本)
 - ・第一回公判日決定→5/25
 - ・シャキットから賛同金5,000円支払う(3/19)
7. 第51回富山県母親大会について
 - ・7月24日(日) ウイング・ウイング高岡
 - ・今回、分科会企画には応募しない



お知らせ

◆2011 年度総会

日時：5月21日(土) 総会 13:30～
学習会 14:00～ (公開)

★テーマ 今、変わる時 ～シャキットの活動を考える～

★「みんなでまちづくり」

提起者 宮田 隼さん(寺子屋みやた教室長&人の間学園長)

場所：高岡市男女平等推進センター(ウイング・ウイング高岡 6階)



◆サンフォルテフェスティバル 2011

開催期間：6月25日(土)・26日(日)

・シャキット ワークショップ 「選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対!？」

日時・会場：6月25日(土)15:00～17:00 サンフォルテ 3F 大会議室

※ななの会(選択的夫婦別姓の会・富山)との共催

・展 示 「シャキット富山35」10年のあゆみ 1F エントランス



「夫婦別姓訴訟」裁判ニュース&今後の予定

◆2月24日、訴訟の一部に却下の判決

3月3日、東京高裁に控訴

原告の加山恵美さん・渡辺二夫さん夫婦が訴えた婚姻届の不受理処分の取り消し請求(行政訴訟)が、2月24日、却下されました。行政訴訟でなく、戸籍法に基づき家庭裁判所に申し立てるべきというのが、裁判所の却下の理由です。原告側は判決を不服として、3月3日、東京高裁に控訴しました。

◆最初の口頭弁論の期日が決まりました

5月25日(水)午後4時から、東京地裁104号法廷(大きな法廷)で行われます。終了後、報告集会が開かれます。

別姓訴訟が公開の法廷で行われるのは初めてのことなので、大勢で傍聴や報告会へ参加して関心の高さをあらわしましょう。

富山からも傍聴に行く人を求めています。スケジュール等は事務局で調整しますので、参加希望の方はお気軽にお問合せください。

問合せ先：事務局 TEL&FAX：076-442-5215 E-mail：besseitoyama@gmail.com

◆投稿◆

4月7日

田中優さんの話



福島第一原発の事故を受け、様々な人がマスコミに登場してコメントを繰り返しています。だけどその多くの情報が、二転三転して、なにを信用して良いのかわからない状態になっています。そんな時に田中優さんの情報は、信頼できるものの一つなので、さっそく聞きに行ってきました。

今回は金沢市の兼六公園に近いレストラン KAPO の二階で、企画では30人を予定していたものが、申込が多くて急遽定員を60人に増やし、最終的には85人の参加者でした。

話の内容は、福島原発事故の状態が想定外ではなく、す

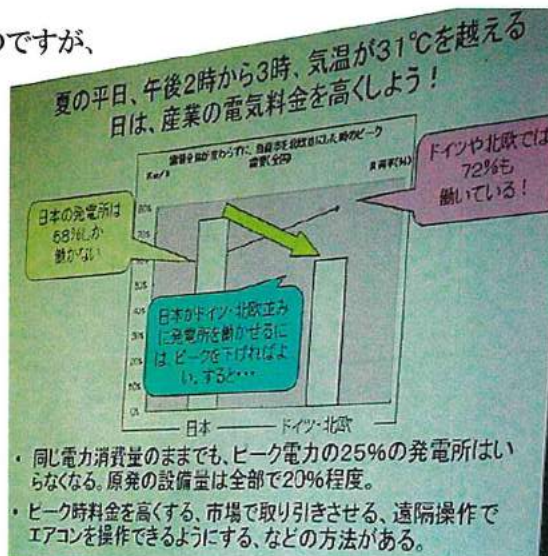
でに多くの人が懸念していたとおりの事故が起きたという意味で、これは明らかに人災であるということ。それではなぜこのような人災が起きてしまったのか？ その原因を彼は電気事業法にあるとして、電力業界がまったく採算の合わない原発を推進する理由を、開発費や宣伝費を含めた全事業費の一定率を利益として電気代に上乗せできる法律の存在を指摘します。それがために日本の電気代は、自然エネルギーの導入が盛んな先進国よりも高額で、アメリカの3倍、スウェーデンの6倍とのこと。せっかく自然エネルギーの豊富な国に暮らしているが、日本人は恩恵にあずかれないどころか、自然エネルギーによる発電事業に参加も出来ないのです。

そうは言っても自然エネルギーは不安定で、エネルギー効率も悪く、採算が合わない！と思込んでいる日本人が多いのは何故か？ 電力会社は、いくら宣伝費を注ぎ込んでも経営を悪化させないので、彼らは膨大な宣伝費を注ぎ込んで、市民にそう思い込ませてきたのです。原発がクリーンで安全！と宣伝して思い込ませてきたのと同じで、自然エネルギーは効率が悪くて、不安定で、役に立たないと宣伝してきた、その効果として、多くの人々は何も検証しないで信じているのです。だけど世界に目を向ければ、人々はそんな宣伝を受けておらず、自然エネルギーの優位が認められ、転換が進んでいるのです。

世界的には、原発のコストより太陽光発電の方が安くなっており、多くの日本企業が、自然エネルギーの発電技術を世界に輸出している。それなのに日本で導入が遅れているのは、電力会社が邪魔するからです。日本には世界的に優れた「省エネ製品」があり、「バッテリー」があり、「電気自動車」があつて、「IT技術」だって優れている。さらに豊かな★「自然エネルギー資源」が、利用されずに眠っている。現在日本のエネルギーは、94%が輸入に頼っているのですが、これを国内で賄える自然エネルギーに転換すれば、それだけでも、年間24兆円の無駄を、節減することが出来るのです。

僕らが東京電力の原発事故の惨事から学ぶべきことは、
 (1) 原発がクリーンで安全！などの、宣伝デマに惑わさない。
 (2) エネルギーと食料の自給自立で、無駄のない幸せを目指す。
 (3) 経済拡大よりも、穏やかな日々の生活が優先される社会にする。
 (4) 巨大利権勢力を排せるような、市民民主の政治を実現させる。
 まだまだありますが、今回の原発災害を二度と繰り返さないために、巨大利権に惑わされない、市民の覚醒と自主的な行動によって、新しい価値観による、豊かな社会をつくらなければならない。他人事ではなく自分のこととして、まず自分の生き方を考えたいですね！

磯辺文雄



◆投稿◆

東日本大震災チャリティーイベント

～いま私たちにできること 伊達直人大作戦！～ てんつくマン×田中優 トークライブ

■日時 4月6日(水)14:00～20:45 ■会場 富山市民プラザ2Fアトリウム

【昼の部】14:00～17:30 入場無料 てんつくマンによる書き下ろし(先着60名:別途料金)

【夜の部】18:00～20:45 てんつくマン×田中優 講演会

入場料1500円(当日2000円) 高校生以下無料 ★このイベントの収益は、すべて東日本大震災とニュージーランド地震の義援金にさせていただきます。 http://maketheheaven.com/egao/?page_id=1463

■主催 TEAM 伊達直人

■後援 はちどりBANK@とやま設立準備会

<てんつくマン>講演活動や個展を開催しながら、小豆島の村づくり、カンボジアの子供達への支援、環境問題を環境ゲームととらえ笑い楽しみながら実践していくなどやりたいことをやっている。NPO メイクザヘブン代表 東日本大震災直後から現地に「め組 JAPAN」という支援チームを立ち上げて末端の避難者にまで支援物資が届くように、情報収集、現地活動をしている。今、現在の生の声を届ける。

<田中 優> 地域での脱原発やリサイクルの運動を出発点に環境、経済、平和などのさまざまな NGO 活動に関わる。現在、いろんな情報が飛びかい何を信じていいのか混乱している中、福島第一原発で起きていること、放射能の特性について対処法や現地の話をする。

● いつも理論的な田中さんの話だが、今回は怒りが加わりインパクトが強かった。電力会社が大スポンサーの広告機構「AC ジャパン」、日本は情報鎖国という言葉が印象に残った。テレビに流されている間違い報道に騙されてはいけない。これからは年代や立場の違う人たちが課題ごとにつながって、問題解決していくことが重要だと思う。若い人たちの活動を応援するためには、まず彼女たちのイベントに参加してみることだ。一緒に作業しながら話していると、いろいろなことが分かり楽しい。

山下清子

● てんつくマン・田中優講演会に参加した。予約が多く椅子がないというので座布団を持参して参加した。多くの若者が3/11以後の日本の危機を乗り越え、新しい日本の転換点にしようと優さんの講演に熱心に耳を傾け、会場は満員だった。

福島原発は9月まで、フレッシュな放射能を出し続けるだろう。最悪の危機は脱したようだが、長期的な視点で対策が必要である。子ども、幼児、若い人はやはり避難した方がよい。10年後子どもの死に出会うという悲劇を体験しないためにも。

放出された放射能水は黒潮にのってハワイへ到達するだろう。海流の関係で三陸海岸の魚の方が安全だ。多めに三陸海岸の魚を買って、復興に協力してあげよう。

内部被爆が怖いので、花粉症のマスクの下にぬれたハンカチをして防ぐとよいそうだ。

地震大国日本では原発は危険。太陽熱、波力、地熱発電、水上風力、小水力発電風力などの自然エネルギーに頼りたい。世界の多くの先進的な事例をあげながら、省エネ、電気自動車、IT、蓄電器、スマートグリッドなどを生かした新しい日本の姿が紹介され、一刻も早く実行に移していきたいと思った。汚れた大地は、ビニールシートをかけ汚染を防ぎ、汚染に強い菜の花やひまわりを植え、その油でディーゼルエンジンを動かし、土を回復させていく菜の花プロジェクトを実践して大地をよみがえらせていこうという明るいビジョンがいっぱい頂けた講演会だった。是非、多くの人や議員さんにも聞いて頂きたい講演会だった。

津本孝子

「原発はいらない！」4.10緊急富山集会とデモ



ネットの呼びかけで100名を越える人達が集まった。

福島県から「原発震災」を目の当たりにした当事者からの発言、東京からは放射能を避けるため富山で出産する事を余儀なくされた女性の発言、石川からは珠洲原発差し止め訴訟原告(地裁勝訴・高裁、最高裁敗訴)である女性の発言…そして20代の、自然エネルギーを考える集まりからの発言が希望への期待を会場に投げかけた。

地震列島の地殻変動期は次なる地震を高い確率で指摘しています。「浜岡原発、能登原発すぐ止めてください！」原発安全神話の崩壊が現実問題になったいま、プロパガンダが虚言であったことをだれも見破りました。

「核と人間は共存できない！」「自然の風・自然の水・自然の熱、自然の恵みを使わせてもらおう」声をあげ、歌い、市民の心に呼びかける行進でした。

福島原発事故からみえてくるもの

午前の行動が余韻を残すなかで柵座さんの講演、「理学を学び、学びに関わる仕事につき実社会における産学の有り様に疑問を持つ者として発言の機会を持ちました」と、自己紹介がされた。

話術ではなく科学者の良心が福島原発事故を「福島原発事件」と、位置付けています。

「レトロな原発」45年前のアメリカ原子力潜水艦の原子炉を原型としたものであり「安全」のガードには問題がある(原子炉格納容器の容積)。

アメリカの政治力が正力松太郎(読売社主)・中曽根康弘(通産省)を介してGE社の原発導入をもたらした国策の先鞭をつけた。

炉心臨界で核分裂させ中性子を制御棒でコントロールして制御するという極めて不安定なものである(事故の連鎖)。

政府の無能それを支える電気自業連合会と御用学者(エセ科学者)そして読売、産経を頂点とするマスコミ。「原子の光」教のプロパガンダ。

情報管制(個人の研究に関する情報発信は慎むこと)。

メルト・ダウン(再臨界)に至れば半径250キロは危険水位。

浜岡原発が制御不能になる事件が発生すれば列島が危険水位に飲みこまれる。

希望はある

「全ての原発を止める、廃炉にする、地域分散型自然エネルギーを！」

一人ひとりが暮らしをみなおし、かえる」

北條たけし



子どもたちの笑顔と 安心して遊びまわれる環境がずっと続きますように

みんなで手を取り合い 心が通じ合いますように

「ニュージーランド地震」「東北地方太平洋沖地震」「福島第1原子力発電所の放射能漏れ事故」を受けて富山県内を中心に環境問題をはじめ 様々な問題を解決しようと活動している 個人・団体をこれまでよりもより実質的な繋がりを持って力を合わせていければと“シフトエネルギーとやま”を立ち上げました
環境 人権 エネルギー 経済 食 など実在する様々な問題は複雑に絡み合い 大きな視野でみんなで考えていく事が必要です。電気も言葉も食べ物も全てエネルギー 私たちの命 生命活動そのものです 命を繋ぎ 子どもたちのために明るい未来を築くため いまこそ シフトエネルギー シフトマインド 意識の変換こそが 問題を解決していく鍵となるでしょう。シフトエネルギーをテーマに繋がる市民のネットワークに賛同する個人・団体のそれぞれのメッセージや様々な情報を発信するとともに 呼びかけ人 発起人の活動や 県内に限らず他の団体の動きに連動していきます。“シフトエネルギーとやま”としてもいくつかの合同アクションを行なっていきます。ぜひ、ご参加ください。
清水隆之

上記のような呼びかけがあり集まりました。いろいろな活動をしている人たちが話し合い、動き出します。あなたも参加しませんか？ この件についての問い合わせは山下まで (TEL0766-23-1054)

2011. 3. 11 歴史的な人災から新たな学びと出会いが始まる

3月20日、金沢ピースウォークのワークショップで鎌仲ひとみさん、中垣たか子さんの話を聞く。そこで富山の若者清水隆之さんに出会う。彼の呼びかけで、4月3日シフトエネルギーとやまの設立準備会が行われた。会場には若者たちが大勢参加していて頼もしかった。彼らは現在進行中の原発震災に対し素直に思いを表し、如何に行動したらよいか学びたいと語った。しかし、これまで反原発運動をしてきた先代と呼ばれた人たちの発言に、やや引いた雰囲気があり残念だった。とはいえ、世代をつなぐ新しい動きに期待し、焦らずコラボしていきたい。

22日、淡川さんを講師に「原発震災」の学習会があった。原子炉側面には沢山の配管が複雑に絡みあっている写真で、TVの情報が誤魔化しだと一目瞭然。基礎編の学習ができてよかった。

4月9日、岩上安身さんのトークカフェに参加した。原発震災に関する情報隠ぺいと小出さんへのインタビューからの解説が中心だった。ジャーナリストとしての有能さがビンビン伝わった。彼らがソーシャルメディアでどんどん発信してくれる今、大本営発表・言論統制時代を繰り返さないようにしたい。

4. 10脱原発緊急行動 in とやま「やっぱり原発なしで暮らしたい！」

5日、発起人の一言に賛同した8人が呼びかけ人となり、緊急に準備。ML等で参加を呼びかけた。全国的な行動と連帯して集会・デモが行われた。100人以上が参加し浜岡原発即停止、志賀原発永久停止を訴えた。満開の桜見物の人々の注目を集めた。ユーストリームで全国・世界配信、TV1社や新聞3社などが報道し、結構アピールできた。私の息子も、高円寺の集まりに参加したという。初めての人や若者も参加しやすくし、より多くの人々が自分の思いを表し楽しく行動できるようにと願っている。原発震災が収束するには長期戦が予測される。行動を続けていこう。
山口和子

市民活動サポートセンターとやま 設立記念フォーラム

2011. 4. 2. (土)午後3時より
サンシップとやま 1F ホール

第1部フォーラム テーマ「市民が支える暮らしの場としての地域づくり」

第2部震災復興支援チャリティーライブ 音楽を聴いて復興支援「富山からできること」

* 募金は「はちどり Bank とやま」設立準備会を通して直接現地ボランティアセンターへ

市民が市民の活動や生活を支える仕組みをつくる一をキャッチコピーに、「市民活動サポートセンターとやま」の設立記念フォーラムが開かれました。NPO活動をしている人やしようとしている人、関心を持っている方々ら約50人が参加。パネルディスカッションがあり、特別ゲストとして全国でワンマンライブ、イベントなど活躍中の森源太さん(長崎生まれ)のライブがありました。

はじめに、NPO・ボランティア活動をしている難病ネットワークやフードバンクとやま、はちどりバンクなど5団体・グループの代表者らから応援のメッセージがありました。それぞれ、同センター代表の能登貴史さんに世話になった方々で、日ごろからの支援への感謝とお祝い、同センターの活動への期待などが述べられました。

パネルディスカッションには、金沢から「NPO法人 i-ねっと」事務局長の青海康男さん、「NPO法人このゆびと一まれ」の惣万佳代子さん、同サポートセンター副代表になった石橋孝史さんと能登さんの4人が発言者となり、富山大教授((生涯学習)の藤田公仁子さんがコーディネーターを勤めました。自己紹介を兼ねてそれぞれの活動紹介があり、NPO活動の有効性について話され、地域の課題を地域に密着して解決していくことが大切であること、活動を継続させることの重要性などについて力説されました。ボランティアの有償性についても指摘があり、課題解決した結果としての金は受け取れることや行政との協働にも触れられました。惣万さんは、「目の前の困っている人を助けるのがボランティアでありNPOで、あすの百人を助けるのが行政だが、目の前の人を助けられなければ、あすの百人も助けられない」と、これまでの活動を踏まえて強調しました。

サポートセンターは、当面①市民活動への支援②市民協働の橋渡し③市民セクターの形成—の3つの指針を基に活動していくとし、詳しくは別途事業計画を準備する、ということでした。いまひとつ全体像がつかめない印象でしたが、これからの期待したいと思います。

《連絡先は能登さん 076-466-4165 》

土井由三



能登貴史さんが中心になって「NPO・NGO ネットワークとやま」で、民間の支援センターがほしいと長年話し合われてきました。新しい一歩となる集まりには、富山県内で市民活動をしている若いメンバーが参加していて心強く思いました。

キーワードは「持続可能な地域づくり」これまでの暮らしを見直し、いろいろ協働できるシステムをつくっていくため、相談や情報提供など・活用していきましょう。

山下清子

◆投稿◆

コリア・プロジェクト@富山【第二期】開始

今年も、連続講座「韓国併合100年」をやります。第一期は毎回たくさんの方に参加していただき、さらに継続をしたいとの意見がありました。昨年同様、講師や参加者とともに充実した講座を作っていきます。

講座で学ばなければ、ずっと知らないままだったこともたくさんありました。過去は変えられないけれど、未来は変えられる。「在日」の抱える問題は、日本人の問題です。震災で分かったことのひとつは、マイノリティは声をあげられないということです。選挙権がないことばかり。今年はずっとアクティブに！

「韓国併合100年」連続講座第二期 第1回

「在日」の人権を考える どうなっている？参政権・国籍条項

憲法では主権が「国民」にあることを謳っているが、日本国籍を持たない「在日」には選挙権はない。国籍条項により一部を除いて公務員にもなれない。参政権の獲得や国籍条項撤廃の運動を行っているお二人を講師に招いて、「在日」の人権問題を、日本人の問題として考えていきたい。



宋勇 (ソンヨン) さん

1945年糸魚川生まれ。「在日」韓国人二世。富山市に移住し、公立の小中高校を卒業した。大学時代は朝鮮語や民族的知識の習得に熱中し、総連系組織に就職したが、数年で離脱。その後はプラスチック製品の製造、開発に携わる。民団事務所に常勤して約20年、現在、韓国民団富山県本部団長として、参政権獲得などさまざまな運動に関わる。趣味は父の影響で登山



李龍海 (イヨンヘ) さん

1954年生まれ、福井市在住、「在日」韓国人3世。主に在日外国人の人権問題、自治体の職員採用任用における国籍条項撤廃、地方参政権問題に取り組む。第二次不逞強制連行訴訟・北陸連絡会共同代表。著書に『詩集赤いハングル講座』(晨鶏舎)その他、「新日本文学」、「批判精神」等に作品を掲載。現在毎日新聞に『在日からの声』と題して毎月コラムを執筆。本人のブログ詩集『精神の廃墟の中で』に収録中。

4月23日(土) 午後1時~4時

ザンフォルテ304号 富山市羨入船町6-7 TEL076-432-4500

参加費1000円 (第2期) スポーツ6回分5000円)

もっと「在日」の人たちの声を聞きたいという要望があります。子どもたちが希む学校教育を受けて、好きな職業に就けるのかというと、そうではありません。安心して老後を送ることができる人も、多くはありません。また、居住の自由も大きいとはいえないのが現実です。そんなことなども、考えていきたいと思っています。

連続講座「韓国併合100年@とやま」予告

第3回以降は、まだ計画中です。運営委員を募集しています。

	日時	テーマ	講師・話し手	会場
特番	6月25日(土) 9:30~11:30	ビデオ上映 そして僕は日本で生まれた 在日コリアンのルーツ探し 女たちの韓国併合Ⅱ 女たちは異郷で子を産み、育てた…	ビデオ上映	ザンフォルテ・フェスティバル
第2回	7月9日(土) 午後	中学校の新教科書を考える 「愛国心」などを押しつける 新学習指導要領に基づく中学校の教科書採択が2011年度に行われます。 「つくる会」教科書を含め全検定教科書について考える。	松浦晴芳 教科書ネット	

* 日韓の歴史をたどり、現地市民団体と交流する韓国ツアーを予定しています。参加者が希望するところに行けるように企画します。参加したい方はご連絡ください。

主催=コリア・プロジェクト@富山 090-5175-3756 (堀江) <http://sites.google.com/site/kankokuheigou100/>

統一地方選挙報道

北陸中日新聞 シリーズ有権者のチカラ



有権者のチカラ

投票率の低下は、選挙の質を低下させる。有権者は、投票率を上げることで、政治の質を高めることができる。投票率を上げるには、投票の機会を増やすことが重要である。統一地方選挙では、投票の機会を増やすための取り組みが行われている。投票の機会を増やすことで、有権者は、政治の質を高めることができる。投票率を上げるには、投票の機会を増やすことが重要である。統一地方選挙では、投票の機会を増やすための取り組みが行われている。投票の機会を増やすことで、有権者は、政治の質を高めることができる。



4年間の投票見極めて

有権者のチカラ

投票率の低下は、選挙の質を低下させる。有権者は、投票率を上げることで、政治の質を高めることができる。投票率を上げるには、投票の機会を増やすことが重要である。統一地方選挙では、投票の機会を増やすための取り組みが行われている。投票の機会を増やすことで、有権者は、政治の質を高めることができる。



若者動かす仕掛け必要

有権者のチカラ

投票率の低下は、選挙の質を低下させる。有権者は、投票率を上げることで、政治の質を高めることができる。投票率を上げるには、投票の機会を増やすことが重要である。統一地方選挙では、投票の機会を増やすための取り組みが行われている。投票の機会を増やすことで、有権者は、政治の質を高めることができる。



当選後の活動も関心を

有権者のチカラ

投票率の低下は、選挙の質を低下させる。有権者は、投票率を上げることで、政治の質を高めることができる。投票率を上げるには、投票の機会を増やすことが重要である。統一地方選挙では、投票の機会を増やすための取り組みが行われている。投票の機会を増やすことで、有権者は、政治の質を高めることができる。

有権者のチカラ

法制度の提案や行政のチェックをしない議会に意味はない。地方議会で、議員が積極的に条例を提案してほしい。そのときに大事なことは、市民と話し合って決めることだ。

まず、市民活動を実践している議員が議会で議論を深めてほしい。市民やNPOと日常的に活動する中でこそ、生活者の思いを政策に反映できると思う。日本には、こうした議員がごく少数なのが現状。かつて視察したノルウェーと日本の違いがはっきりした覚えがある。

低投票率の原因は政治不信のひと言に尽きる。「投票しても変わらない」という諦めが大きい。特に若い世代や女性など、特定の政

山下 清子さん NPO副理事長



4/8 やました・せいこ 婦人会活動を通じて女性の政治・社会参加を推進。まちづくりに取り組む「NPO法人 Nプロジェクトひと・みち・まち」副理事長。富山県高岡市、65歳。

条例提案 市民と議論を

党と関わりを持たない有権者は投票として白票でもいいから投票に票する意義を持ちにくいと思う。行ってほしい。「議員に心を通わし投票では、有権者がまず候補者 いる人がいない」という意思表示を知ること。自分から選挙事務所 なる。

に電話したりしていい。知人や友 家庭でも政治や選挙の話をして、市民グループで話し合う機会 ほしい。子どもの時から、生活がをつくるなど、行動が重要だ。入 政治に深く関わっているのを知れた人がいなければ、最後の選 ことは大切だ。

有権者のチカラ

投票率が低迷しているのは、有権者が「政治とカネ」の問題を嫌っていることも背景にある。まずは徹底的に透明性を高める手だてが必要だ。

仕事で足を運ぶ「ウエーデン」は、有権者の目が鋭い。ある女性議員が「チヨコレットを買った際、現金の持ち合わせがなく、代金約二千元を公務用のクレジットカードで支払った。批判を受けた彼女は「民主政治に背いた」と議員辞職した。投票率が80%を下回れば選挙は無効でやり直し。「一票の重さ」が分かりやすい仕組みだ。

日本にこうした感覚はあるだろうか。覚悟が甘い政治家、無関心な有権者双方に当事者意識が欠けている。



鎌仲 ひとみさん 映像作家

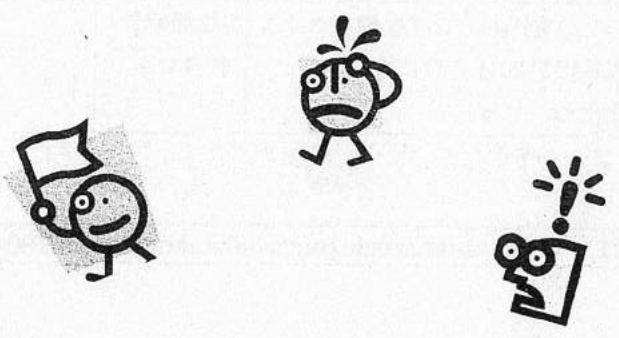
「地方が主役」と意識を

政治家と有権者の上意下達の感じ。例えば、原発事故が深刻化する覚悟はしない。中央への「陳情」も、地元の問題の是非についてという言葉に違和感がある。適切 聞くだけで政治への意識が変わる。選挙区分は地方にとって「当然の権利」だからだ。

「今の政治を変えたい」と思っている有権者は多く、身近な統一 けた、地域に骨を埋める覚悟のある地方選は絶好の機会。「地方が主 なる候補者に一票を投じてほしい。投」という意識を持ち、候補者に具体的な政策を掲言してほしい。

候補者は選んで偉くなるので、はな、有権者を代弁している。地方選は、地域に骨を埋める覚悟のある地方選は、地方が主 なる候補者に一票を投じてほしい。投」という意識を持ち、候補者に具体的な政策を掲言してほしい。

かまなか・ひとみ 早大を卒業後、映画制作の現場へ。原発を描いたドキュメンタリー映画「ミツバチの羽音と地球の回転」が上映中。富山県水見市出身。52歳。



「とやま 311 ネット」

東日本震災に遭われた方が富山県に避難してきておられます。その方々に必要な生活用品や家財道具を市民から募集して届けたり相談にのるなど心のケアをしたりして支援する県内 NPO 等のネットワーク・グループです。3/25 から自主的に集まって活動しています。

高岡地区の窓口（とやま 311 ネット@高岡）は、NPO法人 Nプロジェクトひと・みち・まちの宮田が担当しています。みなさんのご協力をお願いします。

問い合わせ先 宮田 隼 携帯:080-1957-3902 Mail: terakoya_miyata@ybb.ne.jp
とやま 311 ネット@高岡ブログ <http://ameblo.jp/311takaoka>



映画紹介



映画紹介

とき: 2011年6月12日(日) 13:30~
ところ: 小杉文化ホール ラポール まどかホール
★上映後 鎌仲ひとみ監督との“会場トーク”あり
★チケット 1000円(大学生以下 無料)

開館15周年記念

ザンフォルテフェスティバル2011

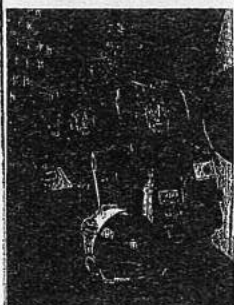
表彰等

- ・富山県部門功労表彰
- ・女性が輝く元気企業とやま賞表彰
- ・とやまのイクメン・カシガン賞優秀な親メッセージ表彰

基調講演 「宇宙主夫。妻と娘と夢を追いかけて」

講師: 山崎大地氏
(国際宇宙サービス代表)

6月25日(土)
10:30~12:30(開場 10:00)
富山県民共生センター2階ホール



<講師プロフィール>
1972年、神奈川県鎌倉市生まれ。「国際宇宙サービス」代表。
1997年、三菱スペース・ソフトウェアに入社。国際宇宙ステーションの運用管制官として「きぼう」の運用準備に貢献。
2000年に宇宙飛行士候補だった角野道子さんと結婚し、2004年に妻の道子を機に家族を失ったため退職。宇宙飛行士の道子さんと、長女優希さんの3人家族。

- ◆対象・定員 県内在住の男女 350名 (定員を超えた場合は抽選いたします)
- ◆一時保育 0歳~就学前まで(300円)。親子同室で申請可能な「親子室」もあります(無料)
- ◆申込締切 6月9日(木) [必着]

主催/ザンフォルテ フェスティバル実行委員会
(富山県各団女性団体・関係団体 富山労働局 富山県教育委員会 富山県 (財)富山県女性財団)

止川菊栄の現代的意義
いま 女性が働くことと

止川菊栄
120年記念事業

フエミンニズム
止川菊栄記念会



介図書紹介

《会計報告》

2011年3月31日現在

【収入の部】	【支出の部】
・2月より繰越 50, 222円	・シャキット情報 120号送料 7, 440円
・会 費 18, 000円	・シャキット情報 121号(製版等) 2, 430円
・E フェスタメイン事業資料作成費 10, 000円	・シャキット情報編集版下インク代 5, 000円
・チラシ折込み料 1, 000円	・別姓訴訟を支える会 年会費 5, 000円
	・E フェスタメイン事業資料作成費 各担当者へ配分 9, 000円
	・消耗品(コピー・領収書) 1, 590円
	・事務局費(6名) 42, 000円
	・4月へ繰越(2011年度) 6, 762円
収入の部合計 79, 222円	支出の部合計 79, 222円
++上記とは別に「特別会計」として 30, 000円あります++	
会計 青木	



編集後記

今号は、先月発行からひと月経たない内の発行となりました。

3・11の大震災、大津波。映像や活字で知る甚大な被害状況に、想像力を精一杯働かせて、何かしなければ……と多くの方が考え動いた日々だったと思います。支援のため現地に赴く人、避難してきた人への支援をする人。起こった事を他人事としないで動く人が多くなったように心強い。

そして今も続く原発事故。出てこない情報。苛立つ思いと、危険を知りながらも現況を迎えてしまった慚愧に堪えない思い。そんな思いに応えるように、この間、富山・石川でも多くの緊急講演会が開かれました(投稿記事をご覧ください)。また「4・10 脱原発 緊急行動 in とやま」が呼びかけられ、桜満開の中、多くの市民で賑わう町を、100人でデモ。今後放射能物質と共に生きなければならぬ事実と、止むに止まれぬ思い。東京でも多くの市民がデモに参加したと報じられました。

そんな中で行われた統一地方選挙。市民の中では「シフト」が大きなキーワードとなっているけれども、そのことが論じられないまま、いつもながらの選挙戦を繰り広げた候補者が多かったようです。高岡市では女性議員を減らさずに済んだことが救いでした。

学ぶことは変わること。この間多くのことを学んだ私たちは、やはり変わらなければならない。

今号編集長 ムカイフジコ

シャキット情報

NO. 123

2011. 6. 19 発行
編集 事務局

被爆・ヒバク・被曝

ムカイフジコ

東日本大震災に伴う原発事故から3ヶ月が過ぎた。

未曾有。想定外。安全。チェーンメール（＝デマということではないのでは？）。放射線放出、放射性物質拡散、被曝、土壌汚染、海洋汚染、内部被曝、ただちに健康被害は無い。ホットスポット・疎開・集団移転。節電、シフト、自然エネルギー。ようやく認めたメルトダウン、それでも推進、脱原発。続く避難生活……。頑張ろう！日本、絆、ポポポポンのAC ジャパン。

毎日溢れた政府・原子力安全保安院・東京電力・メディア・WEB からのニュース・情報。様々な数値やデータが科学苦手な頭の許容範囲を超え、思考停止を起しそうになった5月12日、「パニックを恐れたから」とも言われる誰かの思惑通り、原発事故直後にメルトダウンしていたことが明らかになった。そして多くの人々は冷静に受け止めた。

「大量の鼻血、下痢、倦怠感……。子どもたちの体調異変じわり」、「症状記録して」、「非難か……。苦悩の親」、「夫婦げんか/給食の牛乳選択性/生後4ヶ月外出せず」と今日も大きな新聞の見出し。現地ボランティアスタッフ女性の「事故のときは何も知らされず、子どもたちは外で遊んでいた。情報を出す側に頼り過ぎてはいけないと思うようになった」との言葉を紹介している。

思いっきり深呼吸するのも躊躇われ、避難するかどうか、移転するかどうか、そして給食までも自己責任で選ばなければならない現実。情報公開が速やかに為されない現状で、どうやって選択しろというのか。

溢れる情報に溺れて思考停止しないためにも、この期に及んでもまだ潜む「お上意識」を捨て、見極めるチカラをつけなければならない。民主主義の根幹が問われていると多くの人が言う。

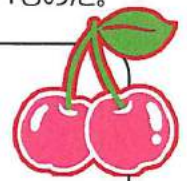
では、どうすればよいか。6月12日「自然エネルギーに関する総理有識者オープン懇談会」で、「わたしたちに何ができるか」とのツイッターでの質問に対し、枝廣淳子さんは、①選ぶこと（情報・選挙など）②声を出すこと ③（周りの人に）話しをすること と、話されていた。

原発は危ないと知りながら、ヒロシマ・ナガサキで「二度と過ちは繰り返さない」と誓ったはずなのに、この現実を迎えてしまった。

3・11以降、重い気持ちから逃れられずに日々を送っている。混乱したままの言葉の羅列になってしまったが、一人ひとりが、煽られる事なく自分の言葉を獲得し、深く思考し続けていきたいものだ。

《6月・7月・8月の予定》 皆さん、集まりましょう！！

- 6月25日（土）15：00～17：00 サンフェス2011「シャキットWS」大会議室
- 7月14日（木）13：30～ 全体会 高岡市男女平等推進センター
- 8月21日（日）10：30～ 全体会 サンフォルテ団体交流室（午後 情報124号印刷発行）



連絡先 Tel&Fax : 高木睦子(076-423-8005)、津本孝子(0766-56-4588) 事務局 m.aoki@alpha.ocn.ne.jp
活動場所：サンフォルテ（富山市湊入船町6-7）076-432-4500

高岡市男女平等推進センター（高岡市末広町1-7ウイング・ウイング 高岡6階）0766-20-1810

会費(年間2000円、情報・通信費等)1部200円 振込み先：郵便振込 00780-9-75052 シャキット富山35

4月～5月全体会報告



経過報告

議題

日	付	活動内容
4月	10日	新旧世話人会議
	17日	シャキット4月全体会・情報紙発行No.122
	23日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	27日	Eネット2011総会・定例会
5月	21日	シャキット2011年度総会&学習会 於：高岡市男女平等推進センター
	23日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	25日	「別姓訴訟」第一回口頭弁論 傍聴&報告会 於：東京地裁・衆議院会館
	〃	Eネット定例会
	28日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング

1. 2011年度総会 & 学習会

日時：5/21(土)13:30～15:30 高岡市男女平等推進センター交流室

(1) 総会 (13:30～14:00)

・資料作り等は、新旧事務局で役割分担し準備する

★総会と全体会の位置づけについて

大切なことは全体会で諮り、活動計画や予算など重要事項は総会で決定する
シャキット情報を隔月発行に変更する件は、総会に諮り決定する

(2) 学習会 (14:00～15:30) (津本/山下)

・公開学習会とする

★「今、変わるとき～シャキットのこれから～」

問題提起「みんなでまちづくり」 提起者 宮田隼さん(寺子屋みやた)

提起後 参加者で意見交換/宮田さんの仲間の若者にも参加してもらう

2. 「働き方プロジェクト」(高木/青木/内山/北条/中林/村籐/橋本/山本)

・南砺市田中市長と面談予定→6月中旬に(北条)

6月29日3時 福野庁舎にて面談

3. 「E ネット」(高岡市男女平等推進センター登録活動団体) (津本/山下)

- ・定例会は、第4水曜日開催 ただし偶数月は午後1時30分・奇数月は夜7時30分
- ・男女平等について基本を押さえて活動することが大事/シャキットの提案は好評

4. サンフォルテフェスティバル2011 6月25日～26日(土・日)

★WSは6/25(土)15:00～17:00 大会議室(山本/山口)

テーマ「選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対!？」

・「別姓訴訟を支える会・富山」・なのの会と共催

6月12日開催

サンフェスWS 第2回運営協議会

★展示「シャキット富山35」10年間のあゆみ(青木/橋本/向)

・継続してつかえるパネル風のものを検討する

《参考》来年の上映映画として、山川菊枝さんの「姉妹よ、まずかく疑うことを習え」を推薦する

5. 「別姓訴訟を支える会・富山」(山本/塚本)

- ・第一回口頭弁論(5/25) 裁判傍聴&報告会 東京地裁&衆議院会館にて
- ・全体ミーティングは原則として月1回行う
- ・サンフェスWS「選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対!？」 シャキット・なのの会と共催

★2011年度総会★

活動

2011年度総会開催。参加 16 名。

シャキットの活動は総会及び毎月の全体会が決定機関です。活動を始めて11年目になる今年一年の活動が、充実したものになるよう、皆様の今まで以上のご協力をお願いいたします。

総会資料は6月のシャキット情報と一緒に送りいたします。

5月21日(土) 午後1時30分～2時15分

於：高岡市男女平等推進センター

司会 (橋本) 挨拶 (中林)

* 活動報告・事業計画案(山本)

* 会計報告・予算案 (青木)

* 監査報告 (向)

* 2011年度の世話人発表

挨拶 (高木)

★学習会★

司会 山下清子

「今、変わる時～シャキットのこれから～」

問題提起 「みんなでまちづくり」

提起者 宮田 隼さん (寺子屋みやた主宰)

宮田さんは、福岡県生まれで、大変貧しい生い立ちだったそうです。小学3、4年生の時、死ぬ時、1億円が枕元にあるより、多くの仲間にもまれて死ぬ方が幸せだと気づき、大切なものは人である。笑っているのが幸せ、人生120年だとすると、これからは不幸な時間を少なくしていこうと考えたそうです。手書きでカードを作ると、友達がとても喜んでくれた。みんなでやること、人との絆を大切に生きていこうというのが自分の基本的な考えだそうです。

「職人」「商人」の町高岡に来て、「あなたみたいな人は受け入れられない」とよく言われました。しかし、2年間高岡で活動して「高岡は、思ったよりやわらかい」と見えてきました。「寺子屋みやた」「人のま学園」の活動を通じて感じた社会の問題は、愛知の不登校の親は、つつみ隠さず訴えようとするが、高岡(富山)の親は隠そう隠そうとする



ことや、「行政はちゃんとやっているからあなたの出番はない」と言われたことです。でも多くの親から相談され、子ども達も畑をしたりする多様な活動を通して、人との付き合い方を学び、みんな大学に入学できました。

それらを踏まえて「みんなでまちづくり」をしようとして、補助金を得て瑞龍時の前に拠点(カフェ)を作り、セミナーや交流企画、不登校、ひきこもり、子育てママなどあらゆる人が交流できるような場を作りたいのが宮田さんの夢で、計画中です。NPOや個人などの任意団体が運営する予定です。高岡の課題は、「若い人がやらない」と市長は言われますが、僕たちが何かやれば高岡だから目立ち、「高岡ってすごい町」だと日本中から言われたいです。

宮田さんの明るい笑顔と若者達の「みんなでまちづくり」の素晴らしい計画に勇気を頂いた私達、実現のために全力で応援していきたいものです。

報告 津本 孝子

「とうとう皆様と共にここまで来れました」

原告 塚本 協子

5月25日、東京地裁104号法廷（松並重雄裁判長）にて夫婦別姓訴訟の第一回口頭弁論が開かれました。

法廷では、原告代理人の5人の弁護士が、夫婦同氏規定（民法750条）の制定から現在までの経緯、規定の違憲性（13条、24条）、女性差別撤廃条約違反（16条g）、立法不作為の違法性、原告が被った損害について陳述を行いました。

国側は答弁書で「夫婦同氏の原則が相当かどうかは立法政策の問題として議論されるべきだが、憲法が要請する結婚制度や家族制度に反するものはない」「憲法13条や24条は夫婦別氏を選択できる権利を保障するものではない」などと主張し、争う姿勢を見せています。

第一回口頭弁論は、最初の期日ということで、形式的な手続が多いものであったと思います。次回期日10月5日16時は、双方の反論書面なども提出され、実体的な審理に入っていきます。次々回は12月14日10時。



原告は弁護士さんに自分の言いたいことで被告側に言質をとられないように指導していただきます。

塚本の代りに弁護士さんが法廷でよく言って下さった、と緊張の中にも喜びを味わいました。傍聴席には、埜田さん、竹本さん、山口さん、原田さん。富山の支えを大きく感じていました。

〈塚本協子で生き、逝きたい〉その願いは、遂に、とうとう皆様と共にここまで来まし

第一回口頭弁論の報告会&交流会

別姓訴訟を支える会・富山

代表 埜田 悦子



れて総勢130名の報告会となった。

第一回口頭弁論終了後、衆議院会館へ移り報告会に参加。傍聴に来ていた多くの方は来るのだろうかと思っていたら（大学生10~20名ゼミの一環として来ていた）全員といってもいい位、皆が地下鉄一駅ある場所を移動して参加している！！それ以外の参加者や国会議員やその関係者、マスコミの方も入

この裁判が共感呼び活動が広がっている証拠だ。そこで塚本さんは提訴後届いた、別姓を望み苦しんだいくつかのメールを紹介した。また、原告それぞれの方が自分の後ろには多くの別姓を望む方がいることを感じるなど、提訴からこれまでの思いを述べた。又、当日午前の法務委員

会で民法改正の問題を取り上げた井戸まさえ衆議院議員（兵庫）や福島みづほ社民党党首など何人も国会議員の発言があった。（午前の法務委員会は塚本さんも傍聴しており、井戸議員は質問の中で、別姓訴訟が本日あり、50年別姓を望み続けた原告が傍聴に来てくれていると発言）



その後の交流会にも参加。東京近県で「別姓を望んでいた。」「今日初めて来た。」「支える会に今日入った。」という方々に会い、この裁判は当たり前の思いが形になっただけと実感した。

「家族のこと夫婦のことは国が決めることではない」と原告の一人。日本の民主主義を作り上げる思いで前に進もう。弁護士や東京の支える会の方々の手弁当の活動、お世話に感謝し東京をあとにした。

ロビー活動をして

山口 和子

代表の埜田さんについて、参議院会館へ向かう。残念ながら議員はほとんど不在のため、秘書の方に民法改正のお願いと夕方衆議院会館で行われる報告会に参加依頼をした。社民党、共産党議員秘書からは、「応援しています」「報告会には参加予定です」などと反応は上々だ。「議員本人が出られないので私が出席します」との返事もあり、嬉しかった。その他はそっけない対応だった。原発震災で初めて国会議員が学習会をしているような面もあったように、別姓問題についても議員自ら学習会をするよう働きかける必要があるのではないかと。（後日、参議員名簿を見たら通称使用の方が10名も。彼女・彼等を巻き込むことで、運動がさらにパワーアップするのではないかと思うのは素人考えなのだろうか。）

一方、京都の吉井さん（原告）から、以前奈良在住時代から支援してもらっている民主党前川議員によろしくと頼まれ、代理で訪ねた。私たち「支える会・富山」も富山県選出の議員とこんな密な関係をもてるようになれば力強いと思った。

第一回口頭弁論を傍聴して

竹本 明子

第一回口頭弁論は、16:00～16:30。東京地裁 104号法廷（大きい法廷、傍聴定員 84名）。開廷の20分前から傍聴券が配布され、並んだ78名は全員傍聴席に入ることができました。その後に満員になり、訪れても入れない方が何人も出ました。廷内は、傍聴席から見ると裁判長を挟んで原告側は左、被告側は右となっています。裁判の前に撮影がありました。

第一回は原告代理人の弁護士が5人陳述します。

早口で進めてもあつと言う間で、残りの5分は裁判長が被告の国側に対して陳述書を何時まで出せるのかとのやり取りがあり、被告側は、憲法は氏名権・夫婦別姓は保障していない、条約に関しては関係官庁ともありますということで、陳述書は8月だか、9月だかのやりとりの結果、その後の口頭弁論期日は第二回（10月5日 16:00～）・第三回（12月14日 10:00～）103法廷にすること。ここと同じく大きい法廷ですよ、とのことが決められていきました。

感想として、元気がある原告席に相対して、被告席はほんとに静か、及びつまらなそうで眠そう。傍聴は各地から駆けつけた長年の思いをこめた方々、男女を含めて若い人たちも多かったことは、この裁判の関心の高さを物語っているということを確認した次第です。

サンフォルテフェスティバル2011へのお誘い

時 6月25日(土)～26日(日) 開催
場所 サンフォルテ全館(富山県民共生センター)

「シャキット富山35」が開催する WS & 展示

ワークショップ 「選択的夫婦別姓 あなたは賛成? 反対?」 (チラシ同封)

6月25日(土)15:00～17:00 サンフォルテ大会議室(3F)

始めに、街頭インタビューでいただいた生の声を聞き、参加者で意見交換をします。子どもの姓、家族のつながり、財産、相続、お墓・・・別姓で問題点と言われていることなどについて、参加者のみなさんで話し合しましょう。

今回のワークショップは、3グループ(別姓訴訟を支える会・富山、なのの会、シャキット富山35)の合同開催です。お気軽にご参加ください。待ってま～す!!

展 示 「“シャキット富山35” 10年のあゆみ」

6月25日(土)～6月30日(木) 1F エントランス



2011第一回学習会「クォータ制について学ぼう」

担当：磯辺、高木、津本、山口、山下

と き： 7月2日(土) PM4時～6時 ※終了後 交流会6時15分～7時15分

ところ： 高岡市男女平等推進センター 交流室 (ウイング・ウイング高岡6F)

講 師： 神永 れい子さん 「クォータ制の実現をめざす会」代表

* 神永 れい子 さんのプロフィール *

- 1955年 愛知県生まれ 結婚し 三児の母として各地で子ども会やPTA活動に参加
- 1997年 参議院50周年女性国会に参加(女性議員を増やす必要性を痛感)
- 1999年 「クォータ制の実現をめざす会」<http://www1.odn.ne.jp/quota/>を発足
以後、クォータ制の宣伝普及活動
- 2000年～ 全国フェミニスト議員連盟会員 「増やせ女性議員!なくせ女性ゼロ議会」キャンペーン活動
- 2001年～ 2008年は福山市のRDF(ゴミ発電)問題、芦田川河口セキ問題、トモの浦埋め立て架橋問題、福山城石垣遺構保存問題などに関わる
DV防止法施行後、DV被害者支援のNPO法人ホッとる一むふくやまを仲間と発足 運営、当事者相談支援活動
- 2007年～ デートDV防止ファシリテーター

原発にさよならを

命のネットワーク・呉西

世話人 道具 欣二

東日本大震災、そして、福島原発事故は戦後日本の姿・現実を露わにしました。とりわけ、福島原発事故が露わにしたことは、原子力が人類にとってそして、生きとし生けるものにとって味方ではなく、恐ろしい敵でしかありません。世界が「利潤追求」が本質的な役割を果たしている限り、原子力の商業利用（平和利用）なるものが、私たちが蝕む脅威以外のなものでもないこと。そして、この技術が核兵器競争の時代（劣化ウラン弾・など）を克服しない限り、私たちのものとはなり得ないことも自覚しないといけないと思います。私たちは、原子力時代の真ただ中にいるのです。放射線被曝という悲惨な現実と共に生きることを強いられました。

原子力発電は、1950年代後半から半世紀以上にわたり「国策」として開発、導入されてきました。しかし、世界の原子力を引っ張ってきたアメリカやヨーロッパでは、70年代後半には原子力発電から撤退を始めていた事を知るべきです。理由は明確、巨大大事故への恐れと人的被害の大きさ、成り立たない経済性、消すことのできない放射能の発生そして廃棄物の管理、核兵器と一体となった技術から脱却できない等、原子力の抱える根本的な問題を何一つとして解決できないからです。TMI事故（1979年）、チェルノブイリ事故（1986年）は、大量のエネルギーを浪費する現在の産業や生活の有り方を見直し、自然エネルギーを上手に使い、省エネと地域分散型、低エネルギー社会、脱原発へと進んできました。

そんな中で日本は、国を上げて原発を強力に推進してきた結果、今日の事態をまねきました。はっきりしたことは、原子力発電に対する安全基準が破綻し無効になったことです。したがって、原子力発電を動かし続けることも無効だし、即刻、停止すべきです。また、事故収束の目途すら立たない状況と事故調査や原因が明らかにされていない中で、原子力発電の運転はありえません。はっきりしない以上、動かすこともできないはず。まずはいったん全ての原発は止めて、検証すべきです。今、この夏の電力不足が叫ばれています。しかし、原発を止めても停電はしない。たかだか真夏のほんの十日間程度、しかも、数時間。火力・水力（揚水発電）の稼働率を上げれば、十分賄えます。

日本の原発は老朽化が進みます。40年寿命で考えても、これから急激な減少期を迎えます。エネルギー政策を転換していくチャンスです。独占的電力市場の開放と代替エネルギーやエネルギー源の多様化・分散化と育成が急務です。

最後に、福島原発の事故は、通常運転中の事故です。

「命のネットワーク・呉西」を紹介します

石川県志賀町に、「北陸電力 志賀原子力発電所」1号機・2号機があります。

これまで地元志賀町の皆さんは、JCO 臨界事故（東海村）をきっかけに、住民自らの力で命と安全をまもろうと、01年3月に「命のネットワーク」を立ち上げ、裁判への取組と共に住民サイドの測定監視体制を作る取組を進められてきました。

2号機差止め訴訟は、昨年10月最高裁で敗訴が確定しました。しかし、裁判闘争＝原告団運動終結後も、緊急の課題であるプルサーマル中止や原発廃棄に向けた運動を継続して行くこととし、富山県呉西地区の原告団メンバーも、「命のネットワーク」からの呼びかけに応じ、この会に参加し、結成（再編）しました。

当会は、現地志賀町や地域の皆さんと共に連携して、子どもたちの未来を守っていきます。

年会費 2000円／ニュース・ヨウ素剤を配布／問合せ先 090-2378-6951 道具

山崎久隆さんの講演「原発に未来はあるか？」を聴いて（6／4）

いらんちゃ原発・富山／能登原発防災研究会

淡川 典子

もはや、私たちは3.11の前には戻れない！というのが第一声。そのなかで、私たちが何を選んでゆくべきかを考えないわけにはいかない講演でした。

まず、今回の巨大地震がどのように起きたかについて、そしてこの先予想されることに触れられました。改めて富山の位置を確認したものです。太平洋プレートとユーラシアプレートの間に挟まれた北の北米プレートと南のフィリピンプレートの四枚のプレートのせめぎ合いの渦中にある日本。富山は地震のないところ（ホントに？）で・・・などとのんびり構えてなどいられないけれど、福島第一からの「死の灰」にかんしては、気象庁の拡散予報からもわかるように、天然の要塞立山連邦に護られたみたい。しかし、能登半島の原発が汚染源になれば、富山は「核物質」の吹き溜まりになるとも、しっかりわかります。

福島第一原発四号炉の使用済核燃料プールに国民の眼が吸い寄せられて、知識をもつ者とはもかく、3つの原子炉のなかだけでなく、福島第二や女川原発への注意が逸らされていたようです。第二も安定していたわけでもなく、大丈夫でしたと大宣伝された女川の3機で破損箇所は640ヶ所。余震によるそれらへの影響も考えると、不安は拡がります。

第一の三つの原子炉のなかでの溶融は経過は異なっても、メルトダウンに至ったことは疑いようもなく、3号炉（プルサーマル）のメルトダウンは世界ではじめてのことです。MOX燃料は32体（580本中）であったことが不幸中の幸いのようにです。大気へ、海へそして地面への放射性物質の拡散は、すさまじいことになることは、避けられません。すでにみなさんご承知のように、チェルノブイリ事故の際のもっとも高い汚染よりも高いホットスポットが、国の原子力防災指針の重点的に対策を充実させる地域（8～10km圏）をはるかに超えたところで、出ています。

放射線の人体への影響は、深刻です。原発が国際的にスタートした頃には、急性障害だけが視野に入れられていました。が、原子力開発の過程で発生した多くの障害から、低線量内部被曝の深刻さを無視することができなくなってきました。

今回かなりの方が、生物学的半減期ということばに注目されたかもしれませんが、1度やごく短期間の被曝ならともかく、たとえば汚染された海藻類を食べ続けたら、どれほど低減できるのだろうか、ちらっとおもいました。



日本列島周辺のプレート

物理学的半減期30年のセシウム137が生物学的半減期は50日（70日とも）で、この放出量は測定されていますが、同じくらい出るストロンチウム90（物理的：28.6年 生物学的：18年）は東電では、測定されていないという。セシウムは、筋肉や生殖腺に蓄積され、乳がん、子宮がんなどを、ストロンチウムはカルシウムと同じ性質をもち、骨に蓄積されるので、骨がん、骨髄腫や白血病の原因となる。

電源が他にないわけでもなく、電力が足りないわけでもないのに、緩慢な死の社会、若い者から死んでゆく社会への移行は一刻もはやく止めましょう。脱原発必至です。

“原発ノー”の声を今こそ—小杉で「ミツバチ」上映と監督トーク

土井 由三

9条平和小杉の会（中本昌年代表）発足4周年を記念しての「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会を12日、旧小杉町の小杉文化ホール・ラポールで開きました。

この映画は、氷見市出身の鎌仲ひとみさんが監督で、これまでに制作した「ヒバクチャー世界の終わりに」「六ヶ所村ラプソディー」とあわせ、「鎌仲ひとみとグループ現代が世に問う三部作」となる長編ドキュメンタリー作品です。

フクシマがいまだに放射性物質をたれながしている現在進行形の中での問題提起だけに、保育スペースに幼児を預けた若い母親や学生らを含む集まった約280人（定員240人）の人たちは、映画の後の鎌仲さんのトークと併せ感銘を受けたようでした。

福島9条の会へのカンパが9,354円、9条平和小杉の会へのカンパが13,491円ありました。あわせて感謝申し上げます。

山口県上関町祝島の人々が上関原発の建設に反対し、30年近く体を張って闘っている姿とスウェーデンでエネルギーの自立に取り組む人々の紹介を織り交ぜながら、未来のエネルギーをどうするのかを鋭く問う映像は、“3・11”を経験した私たちにとって決して他人事ではなく、志賀原発の汚染地区に入っていることも改めて確認することになりました。

鎌仲さんはトークの中で、特に内部被ばくの怖さを強調、この秋から冬にかけて福島の子もたちに影響が始め、3年、5年後には、チェルノブイリで経験しているように、子どもたちに甲状腺がんや白血病の多発が心配される、と指摘しました。



人が始末のできない「核」を利用するなんてことは、やめるべきです。ドイツに続いてイタリアも原発ノーの意思表示を明確にしました。地震列島日本に原発は危険すぎます。“3・11”は、原発から自然エネルギーに切り替えるトキがきたことを教えています。

池田香代子さんの『やさしいことばで日本国憲法』を聴いて

津本 孝子

池田さんによる「やさしい日本語で日本国憲法」の講演があった。これは、JC富山ブロック協議会 未来創造委員会（5月15日/ウイング・ウイング高岡 1階）による「憲法啓蒙事業」基調講演で行われた。

3・11以後の福島の子もたちを救おうと、HANAの会でボランティアをされている池田さん。イタリアからは「飛行機代はイタリアがもつから子ども達を避難させるように」と言う支援があったそうだ。タスマニアからも。とてもありがたいことである。福島原発事故の処理と、福島の子もたちを守ることを日本の最先決課題。

「これからは、国より、地域や友を大切にす保守主義を」と池田さんは強調された。地産地消で地域エネルギー、エネルギーデモクラシーを。

秋田県は「秋田こまち」を販売して、1000万円の収入があり、電気代として1000億円を東北電力に払っているという。もったいないことである。

池田さんは最後に、ドネラ・メドゥスの言葉「幸せの5つの条件」を語られた。

- ①綺麗な空気と水と土(福島の子もたちの余りにもつらい現状を思い浮かべられたのか、池田さんは、声をつまらせられた。)
- ②災害や戦争でふるさとを離れなくてすむこと ③基礎的な医療 ④基礎的な教育
- ⑤伝統文化 があれば誰もが幸せになれる。 早くきれいな土と空気と水を、地域エネルギーを、エネルギーデモクラシーの実現をめざしたいものである。

参加報告 「災害・復興と男女共同参画」6.11 シンポジウム

山下 清子

2011.6.11 (土) 10時～16時45分 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木)

主催 日本学術会議・「災害・復興と男女共同参画6.11 シンポ」実行委員会

共催 東北大学 GCOE プログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」ほか

<プログラム>

総合司会 皆川満寿美

はじめのあいさつ 猪口邦子・堂本暁子

【基調講演】

司会 大沢真理

①「東日本大震災を理解する上でのポイントと男女共同参画の視点で見た課題」大原美保

②「災害と男女共同参画をめぐる国際的潮流」池田恵子

【現地報告】

①奥山恵美子(仙台市長/ビデオ) ②小林清美(郡山市) ③山本あい子(兵庫県立大学)

【リレートーク】

司会 青木玲子

① 現場から「私は訴えたい」 伊藤エミ子・宗方恵美子・小宮ひろみ

② 東日本大震災と女性の活動 秦好子・坂本洋子

【パネルディスカッション】

司会 原ひろ子

「災害復興における制度設計と生活再建をめぐるジェンダー課題」 山地久美子

「戦後日本型の経済開発が災害に脆い社会を作った」 大沢真理

「復興に向けた科学・技術のあり方—環境及びジェンダーの視点を中心として—」 後藤俊

「女性の支援活動から復興に向けた提言」 田端八重子

【提言に向けてのまとめ】

終わりのあいさつ 辻村みよ子

3.11の後、富山で出来る被災者支援をしていたが、全国の女性たちの動きが見えなくて気になっていた。五月中旬に実行委員会への参加呼びかけメールが届いたので、「NPO 法人 N プロジェクトひと・みち・まち」で申し込んだ。実行委員は団体 129・個人 87 (6/10 現在)、各県の婦人団体に声をかけて 47 都道府県から 1 団体以上の名前が出ていた。世話人 16 名を中心に、メールのやりとりで準備が進められた。資金についても、一口 2000 円の参加費を何人も出される人や、高校生たちが災害支援のために募金活動をしたもの、高齢者が集うサロンにおいてあった募金箱のものなど、200 万円をこえた。当日の参加申込はすぐに収容人数の 300 人を突破した。多くの協力があり、短期間で全国規模の会議が開催できた。

しかし、日本の政治そのものがおかしい現状にあって、女性たちの声は政策にまだまだ届いていない。報告で「東北の女性たちはあまり意見を言われないので、困っています」というのがあったが、これこそ女性問題であり男女共同参画推進の課題だと思う。これまで、それぞれの自治体で進められてきた男女平等政策が問われることになる。自分が住んでいる自治体の防災対策と同時に、人権や教育などの基本政策をみなおしていく必要がある。

また、学者・議員・市民活動・行政担当など、立場の違う人たちが協力することも重要である。内閣府男女共同参画局の岡島局長の出席もあり、ちょうど国会で審議されている「復興基本法」案に対して要望書を提出することが出来たことは一つの成果であろう。

詳しい報告書はおって送付されるので、関心のある人は連絡ください。

[Nプロ] ピンクリボンキャンペーン2011 (高岡市23年度協働事業)

ピンクリボン キャンペーン ～乳がん検診率を上げよう～

30歳～64歳女性の死因トップは乳がんです。Nプロでは昨年に引き続き、さまざまな方々と協働で「ピンクリボンキャンペーン」を行います。まずは、下記のとおり講演会を開催いたします。みなさまの、ご参加をお待ちしております。

講演会「明るいガン患者～与えられた命を生きぬく～」

講師：神永れい子さん(愛知県一宮市在住)

日時：2011年7月3日(日) 13:30～15:30 場所：高岡市男女平等推進センター 会議室

主催：NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち

共催：高岡市・(株)富山グラウジーズ・高岡市ヘルスポランティア協議会・乳がん患者会「ハッピーリボン」

後援：富山県・高岡市医師会

協賛予定：(財)北陸予防医学協会・国際ソロプチミスト高岡・(株)カーブス



科学の原理と人間の原理

人間が天の火を盗んだ
—その火の近くに生命はない—

木三郎

2011年 富山県地方自治研究集会

3月31日、日本の地方自治が存続を危ぶまれている。その危機を乗り越えるためには、地方自治のあり方を再考し、新たなモデルを創出する必要がある。本集会では、地方自治のあり方を再考し、新たなモデルを創出するための研究に資する。講演・報告による最新の研究成果の発表、パネルディスカッション等を行う。

講演「今!脱原発を考える」
講師 京都大学原子炉実験所 今中智二 助教

報告「能登・志賀原発の現状」
定例電力と原子力発電をすすめる会 和田雄治 事務局
とき 7月23日(土)13:30～16:30
ところ ポルファートとやま4階「琥珀」

主催：富山県地方自治研究センター
後援：富山県平和運動センター

東日本大震災に想う

あひま 東北県 329号

展示会に行こう!

今年は「中学校教科書採択」(2012年から使用)の年です。

まずは、教科書展示会で実際に手にとって見てみましょう!!

展示期間：6月17日～30日

場 所：富山県内下記9会場

「子どもと教科書全国ネット21」発行10円パンフ

子どもと教科書

育蘭社 自由社

採択地区	教科書展示場所	所在地	電話
下新川・黒部	黒部市教育センター	宇奈月町下立 2361	0765-65-0029
魚津	魚津市教育センター	住吉 203	0765-23-9161
中新川	滑川市教育センター	下島 54 生涯学習センター	076-475-0281
富山	富山市教育センター	八人町 5-17	076-431-4404
射水	射水市教育センター	布目 1 庁舎別館	0766-84-9650
高岡	高岡市教育センター	京町 11-43	0766-20-1244
氷見	氷見市教育研究所	本町 4-9 教育文化センター	9766-74-8221
砺波	砺波市教育センター	庄川町青島 401	0763-82-5970
	小矢部市教育センター	岩尾滝 1073	0766-67-0758

《会計報告》

2011年5月31日現在

【収入の部】		【支出の部】	
・2010年度より繰越	6,762円	・シャキット情報 121号送料	8,560円
・会費	38,000円	・シャキット情報 122号送料	7,840円
・寄付	2,000円	・シャキット情報(用紙代)	3,348円
		・シャキット情報(製版等)	2,160円
		・Eネット会費	500円
		・消耗品(コピー代・ファイル等)	1,140円
		・研修費(講師料等)	5,332円
		・6月へ繰越	17,882円
収入の部合計	46,762円	支出の部合計	46,762円
++上記とは別に「特別会計」として 30,000円あります++		会計 山口	

◆総会資料送付と会員継続のお願い◆

5月21日(土)「シャキット富山 35」の2011年度総会を開催しました。提案議題すべて承認されたことをご報告します。本日は総会資料を送付させていただきましたのでご覧くださいませ。

なお、今年度も引き続きシャキット会員として皆様のご協力をよろしくお願いいたします。会費納入は、同封の振込用紙をご利用ください。お願いいたします。 「シャキット富山 35」世話人一同



編集後記

123号編集長 本木英子

今回はシャキット総会報告を始め多彩な原稿が集まりました。3・11の東日本大震災の傷跡はあまりにも大きく、加えて福島原発事故は収束どころか、ますます困難な状況となっております。

原発に関する講演会・学習会・上映会が各地で開かれ、原発廃止を求める集会・パレード・アクション等の運動が広がっています。学習会や集会・行動に参加した人からの報告・熱いメッセージが寄せられ紙面を豊かにしました。

5月25日、塚本協子さんの夫婦別姓訴訟が東京地裁の104号法廷で始まりました。衆議院会館での報告集会にも総勢130名が参加したと報告され関心の高さを示しています。憲法13条・24条違反、女性差別撤廃条約違反に立ち向かう日本初の画期的な訴訟へシャキットの仲間が挑んだことに諸手を挙げて応援しましょう。長いたたかいになるでしょうが、支え続けましょう。

教科書問題も関心を持ちたいもの。横浜の教科書が危ないと報道されています。展示会場に右翼が動員をかけてアンケートに「教科書は自由社のものを」と書かせているそうです。富山各地の展示会場を訪ね、いかに自由社・育鵬社版の教科書が子どもに渡せない危険な教科書であるかを確かめてきましょう。

「ガンバロウ日本」のスローガンが目立ちすぎませんか。戦争責任を「一億総懺悔」でうやむやにしたように、原発事故の責任を誰一人とうとうとしないのと似ているように思いませんか？

民主主義の原点に立ち、「シャキット」しましょう。

シャキット情報

NO. 124

2011. 8. 21 発行
編集 事務局

66年前の夏の出来事を記憶し、記録し、語り伝え、行動しよう！

本木 英子

8月2日未明の富山大空襲

昭和20年（1945年）8月2日の未明、富山市はアメリカのB29爆撃機の襲撃を受け旧富山市の98%が焼失。街はガレキの山の焼け野原となり、2700人以上が焼死しました。投下された焼夷弾の量と死者数の多さから「富山“大”空襲」といわれています。「富山大空襲を語り継ぐ会」では、体験を語る人の声を聞き、記録し資料集めなど地道な活動を続けています。富山市に対し空襲遺跡の保存、犠牲者氏名の刻銘碑建設や資料保存を要請し続けていますが富山市の回答は消極的なまま今日に至っています。

8月6日に広島、9日に長崎に原爆の投下

富山大空襲の5日後の6日の朝8時15分、広島に、その3日後の9日午前11時2分、長崎に、原爆が落とされ一瞬にして多くの命が奪われ街は壊滅しました。熱線の被害、爆風による被害、高熱火災、放射線被害、黒い雨、ケロイド、白血病、胎内被爆、後遺症…被爆被害が何年も続き拡大しました。

8月15日の敗戦記念日、戦後民主主義の下での復興と平和憲法

全国各地の大空襲、広島・長崎の原爆投下を受け、日本はついに8月15日無条件降伏しました。悲惨な戦争体験から、戦争の被害者にも加害者にもなってはいけないと、新しい日本国憲法では第九条で戦争放棄を宣言しました。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を謳った日本国憲法のもと、国民の頑張りでも復興が進みました。しかし経済大国へ突き進む過程で、能率・競争主義、公害問題など様々な歪みも現れ、憲法改悪の動きも強まってきました。しかし、戦争の愚かさ悲惨さを体験した高齢者も、平和憲法下で平和な暮らしを続けてきた若い人々も、憲法改悪の動きに敏感に反応し行動しています。

名称は様々ですが、平和憲法を守ろうという「9条の会」が全国各地に作られ、7000を超える「9条の会」が活動しているといえます。

66年目の今年、東日本大震災と福島原発事故に向きあい新たな決意を！

広島および長崎での平和記念式典で、それぞれの市長は「平和宣言」を世界に向けて発信しました。広島市の松井一実市長は、「2020年までの核廃絶をめざすよう長崎市とともに平和市長会議の輪をひろげる」と表明。すべての核保有国に「核兵器廃絶に向けた取り組みを強力に進め」ることを求めました。長崎市の田上富久市長は、冒頭に東日本大地震に続く東京電力福島第1原子力発電所の事故にふれ、「ノーモア・ヒバクシャ」を訴えてきた被爆国の私たちが、再び放射線の恐怖に脅えることになった、「より安全なエネルギーを基盤にする社会への転換、原子力にかわる再生可能エネルギー開発を進めることが必要」と、核廃絶と同様に放射能に脅かされない世界の実現を求めました。

私たちは「核兵器廃絶」への国民的な運動の発展と共に、「原発からの撤退」を求める運動をすすめようではありませんか。

《9月・10月の予定》 皆さん、集まりましょう！！

9月 3日（土）16:00～18:00 E717 2011「シャキットWS」高岡市男女平等推進センター

9月 16日（金）13:30～ 全体会 高岡市男女平等推進センター 交流室

10月 16日（日）10:30～ 全体会 サンフォルテ団体交流室(午後 情報 125号印刷発行)



連絡先 Tel&Fax : 高木睦子(076-423-8005)、津本孝子(0766-56-4588) 事務局 m.aoki@alpha.ocn.ne.jp

活動場所 : サンフォルテ (富山市湊入船町6-7) 076-432-4500

高岡市男女平等推進センター (高岡市末広町1-7ウイング・ウイング 高岡 6階) 0766-20-1810

会費(年間 2000円、情報・通信費等)1部 200円 振込み先 : 郵便振込 00780-9-75052 シャキット富山 35

6月～7月全体会報告

経過報告



◆新入会員報告

元島 生さん、 井加田まりさん
村石 篤さん

議題

日	付	活動内容
6月	12日	サフェスWS 第2回運営協議会
	16日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	18日	「政治参画P.」最終会議(解散)
	19日	6月全体会・情報No.123 発行(サンフォルテ)
	22日	Eネット定例会
	24日	サフェス2011 展示準備
	25日	サフェスWS「選択的夫婦別姓あなたは賛成・反対!？」
	28日	男女平等「基礎講座」①(高岡市推進センター)
	29日	「働き方P.」田中南砺市長との面談
	30日	男女平等「基礎講座」②(高岡市推進センター)
7月	2日	第1回学習会「クオータ制を学ぼう」
	5日	EフェスタWSについて打合せ会議
	10日	サフェス2011に関するWS・展示のアンケート提出
	14日	7月全体会(高岡市男女平等推進センター)
	16日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	27日	Eネット定例会
	29日	グループ・団体更新手続き・エンパワメント会議(サンフォルテ)
	31日	「選択的夫婦別姓」シール投票(高岡駅前辺り)

- 2011年度第1回学習会(磯辺、高木、津本、山口、山下)(P.5報告)
 - 7/2(土)1600～18:00 高岡市男女平等推進センター交流室
「クオータ制について学ぼう」 講師 神永れい子さん(クオータ制の実現をめざす会 代表)
 - 11/13(日)第2回学習会 申込=高岡以外学習支援事業「原発ってなんだろう？」講師 淡川典子さん
- 「働き方プロジェクト」(高木/青木/内山/北条/中林/村藤/橋本/山本)
 - 6月29日 PM3時より 田中幹夫南砺市長と面談実施(P.4・5報告)
 - 今後の予定については未定、意見を求める ・富山市長と話し合ってみよう
- 県への要望 8/1(月)10:00～県庁の会議室で、男女参画・ボランティア課長と面談(P.6・7報告)

課題 ① 国の男女共同参画推進計画(第3次)を受けて、県の取組状況と成果について
② サンフォルテと県の連携について ③ 公務非正規職員の実態と対策について
- サンフォルテフェスティバル2011 6月25日～26日(土・日)(P.3報告)
 - ★シャキットWSは 6/25(土)15:00～17:00 大会議室(山本/山口)
テーマ「選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対!？」/「別姓訴訟を支える会・富山」・なのの会共催
 - ★展示「シャキット富山35」10年間のあゆみ(青木/橋本/向)
模造紙大2枚、カラーで作成し展示
 - ☆来年のサンフェスシネマに、山川菊枝生誕120年記念事業として製作された「姉妹よ、まずく疑うことを覚え」の上映会を提案する(アンケートにて提出)
- 「別姓訴訟を支える会・富山」(山本/塚本)(P.3報告)
 - 6/25 サンフェスWS「選択的夫婦別姓 あなたは賛成・反対!？」 シャキット・なのの会と共催
 - 7/24「富山県母親大会」&7/31 広島市の「日本母親大会」において、塚本さんがアピールする
 - Eフェスタ2011 WSを開催する(サンフェスWS同様)
 - 7/31 高岡にて「選択的夫婦別姓」について初めてのシール投票を実施する
- 「Eネット」(高岡センター登録活動団体ネットワーク)(津本/山下)
 - 男女平等・共同参画基礎講座 ① 6/28(火)(センター担当) / ② 6/30(木)(Eネット担当)
 - Eフェスタ2011 ワークショップについて (P.8PR)
「北欧に学ぶ～一人一人が大切にされる社会をめざして～」をテーマに話し合う

『選択的夫婦別姓 あなたは賛成？ 反対!?』

山本 夕起子

開催 6月25日(土)15:00~17:00 参加者 30名(男性6名/女性24名)

今回のサンフォルテフェスティバルワークショップは、選択的夫婦別姓の実現を目指し、国を相手に訴訟を起こした原告団長・塚本協子さんの支援団体「別姓訴訟を支える会・富山」と、「なのの会」「シャキット富山35」による合同開催となりました。

始めに、5月22日、28日に実施した、元西武デパート前でのシール投票と、その折の街頭インタビューのDVDを参加者で視聴し、生の声を聞くことからスタートしました。シール投票に答えていただいた人は70名(選択的夫婦別姓に対し、賛成43名、反対19名、わからない8名)。

その後、4グループに分かれ、自己紹介、選択的夫婦別姓についてのワークを実施し、グループごとに発表し合いました。

最後に、塚本協子さんから、5月25日に行われた第一回口頭弁論報告と、これからの裁判に向けての強い想いを語られました。

【4グループから各テーマで発表(一部記載)】

◎ Aグループ

「インタビューの中から、我々のヒントを探る」

- ・富山市では別姓に対し賛成が多かった。高岡市で実施した場合はどうだろうか?
- ・「このままで良いのではないか?」と言う人に対しては、「貴方の意見も判るよ、私の意見も認めて・・・」と、“選択的”を強調した方がよいのではないか。

◎ Bグループ

「なぜ、同姓でなくてはいけないの?」

- ・習慣・伝統、家族の絆、と云ったものである。が、実際の理由は、税制が個人単位でなく家族単位であることに左右されている
- ・個人単位は、「利己主義を生み、家族の一体感を損なう。」と、云った人があるが、これは憶測に過ぎないのではないか。

◎ Cグループ

「子どもの姓について」

- ・現制度では、姓が変わることで無意識に子どもを傷付けたりし易い。別姓が普通になり、違和感がなくなるようにしたい。
- ・今は“選択的”と云うことで理解を広げ、基本は“制度として別姓”を目指したい。

◎ Dグループ

「法制度はなぜ進まないのか?」

- ・国連勧告や各国の状況を突き付け、国を動かさなければならない。
- ・戸籍制度は日本特有のものであり、国際結婚では姓の問題は発生しない。

夫婦別姓について考えるワークショップが25日、富山市湊入船町の県民共生センターで開かれ、約30人が参加した。夫と妻それぞれが希望に応じて同姓、別姓を選ぶ「選択的夫婦別姓」について多くの



夫婦別姓を考える富山でワークショップ

夫婦別姓について理解を深めたいワークショップ「県民共生センター」

人に理解を深めてもらおうと、市民団体「別姓訴訟を支える会・富山」と「なのの会」「シャキット富山35」が開いた。参加者は、夫婦別姓について意見を求めた街頭インタビューを記録したビデオを見て、「個人の自由にするべき」「今まで通りでいい」などインタビューを受けた人たちのさまざまな考えを参考にしながら、意見を交わした。



展示「シャキット10年のあゆみ」

6月29日、“田中幹夫 南砺市長”を訪ねました！

■働き方プロジェクトでは、2008年から女性の働き方にこだわって「公務非正規労働者(役所に働く臨時や非常勤の方)の実態調査」をしてきました。

女性が全体の8割を占め、保育士、図書館司書、看護師・医療関係者、給食調理員、公民館職員等々多くの女性達が、正規職員と同等の仕事をしていながら賃金は3分の1以下、ボーナス、退職金制度もなく、5~10年と働いていることに対し、首長としてどのように思っているのか、問題意識は無いのか、あればどのように対処しようとしているのかを聞きに行きました。

田中市長は、とても多弁で、あれこれやりたいことが山ほどあり、うずうずしているような、とてもエネルギッシュな人でした。私たちは、4人でしたが、30分の時間の半分は市長の話でした。

結論は、非正規に問題意識は余り持っておらず、当面、4町、4村の合併で余ってきたと言われる200人余の職員をあと7年でどのように減らしていくのか、合併前の8自治体の職員のバラバラの賃金を、どのようにしていくのが先行と考えているようでした。

何度も、「同じ仕事をしていながらウ〜ンと違う賃金・労働条件(長くて半年契約)などで、意欲を持って働くことができるか」と質問しましたが、「身分を問わず、我が市の職員は誰もが一生懸命働いている。プライベートな時間に、そういう方々と話す機会は多くあり、意見も聞いている。」とのことでした。

賃金が低くて、病気でも医者へは行かない人もいるという話には、ポリシーの問題、生き方の問題であり倫理観の問題とまで発言していました。その延長線上に彼がやりたいことは、「三世帯同居の社会づくりをしたい」ということで、私たちは絶句してしまいました。確かに、三世帯が一緒であれば老人介護など便利なこ

とも多々あるでしょうが、その便利なことの陰には、忍従の生き方を強いられてきた女性達の存在があるのではないのでしょうか。

先日の新聞に“独居世帯3割突破”、“未婚の若年層が増”、“孤独死男性強い懸念”と深刻な見出しが並びました。これもあれも、女性も働いて自分の食い扶持がまかなわれる社会であるなら、百歩譲って年収200万円以下であっても、二人で働くことで未婚者の増とはならず、男性も家事労働を積極的にする社会なら、孤独死が50代以上の男性7割ということにはならないはずではないかと思ってしまいました。

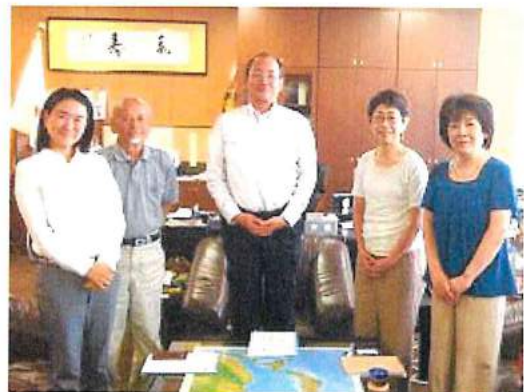
やはり『男は仕事、女は家庭』という企業中心の社会のあり方を変えていくことと、一緒に物事を進めることが大事ではないでしょうか？

(記 高木睦子/働プロリーダー)

■課題を言葉の上で受け止めながら質問をはぐらかす術を身につけている(議会なれ)。一問一答に絞り込ませず最後に「課題」であると認識していますと締めくくる。坊主の説教とみたり。

次回は心して立ち向かうことが肝要であることを強く感じました。

(記 北條健至/働プロサブリーダー)



中央は 田中幹夫南砺市長

■田中南砺市長との面談からは、非正規公務労働者への想い(?)が感じられませんでした。
町、村の合併による財政は、助け合い精神で乗り越えなければならないとの強いメッセージは言葉の節々から感じ取ることはできたのですが、現実にも働いている公務労働の中にいる労働弱者への想いは私には伝わりませんでした。
(記 山本夕起子)

■熱意のある方だな～とは感じましたが、同じテーマで議論したという気になれないまま終了時刻をむかえました……。こちらが確かな質問ができなかったのか？あるいは、はぐらかされたのか？なんだかよくわからないままに終わってしまい、とても残念でした。
「三世代同居ですべてうまくいく」という発言があり、思わず笑みがこぼれてしまいました。
男女平等社会は、まだまだ遠いな～。
(記 中林 晶子)

2011 年度第 1 回学習会

「クオータ制について学ぼう」

開催 7月2日(土) 16:00~18:00 高岡市男女平等推進センター交流室
講師 神永れい子さん(クオータ制の実現をめざす会 代表)
司会 磯辺さん 参加者 9人

津本 孝子

最初に、2人組になり自己紹介をした後、「クオータ制について知ったのはいつ頃ですか？そのエピソードを教えてください。」「クオータ制を日本でも実現していくためには、どうしたらよいと思いますか？」「クオータ制をよく知らない方に、どういう風に説明するとわかりやすいと思いますか？」など5つの質問にお互いに答えてから、印象に残った人の答えを紹介しながら、自分の意見や質問をするという形で始まったので、とても楽しいワークショップでした。

先進的な国々や地方自治体の例等がくわしく紹介された後、条例を作る、審議会のメンバーを男女半々にする、まず参議院選挙からということで100人リストを作るなど具体的道筋が紹介され、とても為になりました。



感想

- ・おもしろかったよ！！クオータ制実現まで話を続けましょう。
- ・人数は少なかったが、良い話し合いができた。南砺市の今からが楽しみだ。クオータ制になったら、世の中変わるだろうに。
- ・楽しかったです。よく話し合ってみないと判らない話が判ってよかったです。もっと会で話し合いましょう。



- ・条例を変える。参議院の候補に100人リストを作るなど、具体的道筋が判ってとてもよかったです。全国の先進的な地方自治体の取り組みがわかってよかったです。山内大臣の実行力で、DV対策に多くの予算が付いて対策が進んだことも、判った。シェルターで被害者に一日1000円与えるという対策は、自立の費用の積立になるので良いと思った

活動

「富山県男女参画・ボランティア課」の担当者との「面談結果」を報告します！

※シャキットからは、3項目について質問を行いました。それに対し、荻布課長より回答が下記のようにありました。

日時： 2011年8月1日(月) 10:00~11:15

場所： 県庁「355会議室」

出席者： 荻布佳子課長、大島一恵副主幹・男女参画係長、松下愛里主任
シャキット世話人5名（高木、津本、山口、山下、山本、）



1、国の男女共同参画推進計画（第3次）を受けて、県の取り組み状況と成果について

【荻布課長より】

県は第2次計画（H19年2月策定）に従い進めている。ほぼ順調に成果あり。

- ① 県の審議会委員の女性比率が向上
H18では 32.4% ⇒ H22は 37.3%に（H27には40%を目指して）今年度は6年目に当たり、見直しをする。
- ② 民間事業所（雇用者側）に対し、チーフオフィサーを置き、女性管理職を増やすよう指導
H23では141社に増加
- ③ 男女共同参画推進委員の取り組みは、従来の活動だけでなく、新たにDV防止、NPO法人への支援等にも活動を広げている。
今年度重点対策として、DVについての理解を深め、予防に力を入れる。（TVのCMやイベントを通して）
- ④ 国の第3次計画では、新たに男性や子どもにとっての男女共同参画及び女性の活躍による経済社会の活性化に寄与する活動を推進することが謳われている。
 - ・ママたちの再デビュー支援事業・・・再就職のための講座をH22に引き続きH23も実施
 - ・イクメン子育て事業、カジダンなど、男性の家事や育児のスキルアップ、周囲の啓発活動を行う。

【シャキットより】

- ① 県の防災計画に男女共同参画の視点を入れてほしい。
- ② 委員を選ぶ時に、一方の性が4割以下にならないようにしてほしい。委員会の女性比率は？
- ③ 防災の委員に女性が何人いるのか？この機会に市町村の実態調査をするなどして、女性の委員を増やすような取り組みをしてほしい
- ④ 堂本暁子さんを中心として全国の女性たちで災害について話し合い（災害・復興と男女共同参画 6.11シンポ）国に意見書を提出した。富山県から県婦人会とNPO法人Nプロジェクトが参加している。市民の持つ情報と県の情報を共有できると更なる力になる。是非、私たちNPOなどを活用してほしい。
- ⑤ 県の男女共同参画の部署は縦割りになっているが、本来は横断的にかかわるべきではないか。
- ⑥ 女性や子ども、高齢者等の視点からの施策が求められている。そのためにも、平素から情報交換をしておくことが重要。今後も交流していきましょう。
- ⑦ 審議委員にもっと女性を増やしてほしい。女性がなれない現状を打破するように。審議会を何度も傍聴したが、委員は経済界など有名人が多くみられる。多忙なためか欠席者もよくあり、資料さえ目を通さず、形ばかりの審議になりがちのように見受けられる。公募枠を見直し、より適切な人材を採用してほしい。
- ⑧ 県の男女共同参画会議の委員にシャキットのように男女共同参画の実現を活動目的としている団体から委員を選んでいただきたい。

2、サンフォルテと県の連携について

【シャキットより】

- ① 男女共同参画に関する基礎講座（女性学の視点で）を開いてほしい。
 - ・ 基本的なことを学び、実践できる男女共同参画推進員を育てる必要がある。
 - ・ 10年経過した今日であっても、市町村の活動からは、基本理念が定着されているようには見えない。推進員の活動もイベント的なもの、寸劇等楽しく一般受けしやすい活動がずっと行われているようだ。見直しの時期ではないか。
 - (注) 男女共同参画推進員制度は全国的にみても画期的
1人あたり年間1万円の活動費が支給されている。現在県下で約570名
 - ・ 一律活動費を支給されるのは疑問。(無償で活動し運営されている事業も多いのだが)
 - ・ もっと協働を！(市民活動のいいところを取り入れてほしい)
EX 高岡市では市民と行政が基礎講座を実施。
 - ・ サンフォルテで育ててきたものを生かすことが行政活性化に役立つ。
- ② サンフォルテフェスティバルについて改善を
 - ・ 現行2日間の日程では、基調講演や映画に参加したくても、WSを行っていたら全く参加できない。参加したいWSがあっても時間的に無理なことが多い。

☆ 改善策として、1週間にわたり開催している高岡市の「Eフェスタ」を参考にしてもらいたい。

 - ・ 実行委員会形式をとっているが、最近は形式的になり、委員の声がなかなか届かず、ほとんど事務局中心に進められている。そのため毎年同じようなパターンになっている。
 - ・ ネットワークづくりを！イクメン講座の参加者たちが、サンフォルテに来やすいシステムをつくるのが大切。
- ③ 「サンフォルテ」と「サンシップ」の市民グループとの協働など、県全体でNPOの活動を推進していけば、相乗効果が出ると思う。

3、公務非正規職員の実態と対策について

【荻布課長より、県職関係のみ】

非常勤職員・・・・・・・・・・516名(内訳 男256名・女260名) H21.4 現在

緊急雇用創出事業による・・・254名(内訳 不明) H23.4

臨任産休代替・・・・・・・・・・47名(内訳 男10名・女37名) H23.4

臨任育休代替任期付・・・・・・・・3名(全員 女) H23.4

育児代替短時間勤務・・・・・・・・9名(全員 女) H23.4

アルバイト・・・・・・・・・・273名(大半が女性で、事業費から賃金支給) H23.4

☆ 全般に女性が多い。賃金は基本的に正規職員と同じ。育休代替職員などはあまり低くない。

【シャキットより】

- ① 市町村では、10年も非正規のまま勤務している人たちがいる。正規職員と賃金格差あり。
- ② 女性の自立のため、女性の賃金に関し、敏感になってほしい。
- ③ 労働条件改善のための組合役員に女性が少ないことも問題。
- ④ シャキット(働き方P.)で行った実態調査の報告書を読んでほしい。(報告書を課長に手渡す)

《その他》

- ① 知事とNPO活動をしているグループと話し合いの場を是非、設けてほしい。
- ② 県西部にも女性相談センターが必要。
シェルターの設置についても市民グループと協働で考えていただきたい。



「Eフェスタ2011」ワークショップ開催！ 「北欧に学ぶ」9月3日（土）16:00～18:00

「北欧に学ぶ」（一人一人が大切にされる社会をめざして）のご案内

会場：高岡市男女平等推進センター会議室

問合せ先：のほら ひとみ (090-8262-3776)

どんな国で暮らせば、幸せだろう。国ごとに「幸福度」を測ると、コスタリカ、ブータンや北欧などが高い。今回の企画は、日本と同じくテクノロジーも発達した北欧の国々に焦点をあててみた。勿論北欧に「光あり、影あり」だけど、思考錯誤しながら、「幸せ」な国になるために、絶えず社会変革を続けている、そんな（努力家の）国として、知りたいことは多い。

これまで、北欧の国々の断片的な事実には、私は「目から鱗が落ちる」ような思いをしてきた。例えば、◎有権者の80%の投票がないと選挙は無効 ◎女性の議会に占める割合が40%ないと×、◎地方議会は基本的に無給（手数料はある）、◎公務員（先生）は自分の立場、意見を伝えるのは当たり前、◎電気を売る本屋さん、◎精神病院がない、etc・・・

3月11日の地震以来、これまでの様々な価値観が揺れ動いている。この先、日本はどんな国へ変わって行けるのだろうか。

その際、こうした国々の知恵をインプットしていることは、「この日本が当たり前」と思い生活する私達に、この国のシステムを見直し、選択を広げる手助けをしてくれるのではないだろうか。だからまず、知ることから始めたかった。

ちなみに、「スウェーデンののびのび教育」という本の最初には、ケーキを切る様子が書かれていて面白い。「日本では均等に切る。でもスウェーデンでは自分が食べられるだけ切る」。当たり前になっている自分の考え方を、今一度洗い流してみたい。幸せ度の高い国を紹介し、みなさんとディスカッションをします。どうぞ来てくださいね。

情報・PR

コミュニティハウス「ひとのま」がオープンしました！

「ひとのま」共同代表 宮田 隼

7月18日にコミュニティハウス「ひとのま」がオープンいたしました！おかげさまでオープン日には123名の方（利長くん含む）が来て下さいまして、とっても賑やかなスタートを切ることができました。オープン後も地域の方や子育てママたち、いろんなアイデアを形にしようと思っている人たちなどなどが日常的に訪れて来ています。また、「県外出身ママの交流会」や「夏休みの宿題手伝います」などの企画にも多くのご参加を頂いており、これから益々、「ひとのま」が果たすべき役割は大きくなるだろうと実感しております。

これからも多くの方の交流の場として、「あんなことしたい・こんなことしたい」を実現できる場として運営していこうと考えておりますので、是非一度コミュニティハウス「ひとのま」へお立ち寄りください！

* ホームページ： <http://hito-noma.jimdo.com/>

* 住所：高岡市東上関 389

（瑞龍寺前 八丁道沿い）

みんなで笑顔のオープニング！
利長くんも応援してるよ →





ピンクリボンキャンペーン2011 ～乳がん検診を受けよう！～

投稿

Nプロジェクトひと・みち・まち 須賀泉美

NPO 法人Nプロジェクトひと・みち・まちは、2009年度、井上佐智子さんから広島「ピンクリボンキャンペーン」の先進事例を聞いて以来、「女性と健康」についての楽集会、「サンダーバースとコラボ de ピンクリボンキャンペーン」など取り組んできました。今年度はこのピンクリボンキャンペーンが高岡市の協働事業として採用され、また県のピンクリボンキャンペーン実行委員会にも、Nプロは委員として参加することとなりました。

今年はbjリーグの富山グラウジーズさんと、高岡市・高岡市ヘルスポランティア協議会・乳がん患者会「ハッピーリボン」等多くの方の協力を得て、全4回シリーズの事業を展開します。7/3開催済みの名古屋の神永れい子さんの講演会は、大変好評でした。シャキットのネットワークにはいつも感謝しています。8/6の七夕街頭キャンペーンには、高校生の参加もありました。

Nプロは、行政や企業に女性の意見を届けたいと活動しています。私たちが市民活動をしていて気づいたことを、政策に活かしていくために協働することは必要である半面、コンセンサスを得るのはなかなか大変な作業です。企業や他団体との協働も重要であり、お互いの立場を理解しあうための話し合いには時間がかかります。しかしそれでも、少しずつ進歩が見られます。

又、女性たちは自分や家族の健康について心配するものの、保健や医療について踏み込んで考える機会は少なかったと思います。乳がん検診の受診率を上げるというキャンペーンに関わってみて、健康についての政策に関心を持っていく必要性を痛感しています。

7/3講演会

「明るい乳がん患者」～与えられた命を生きる～ 講師 神永れい子さん

感想より（20代女性4名）

- ・ 乳がんについてこれまであまり知識がなかったが、実際に乳がんを克服された方の体験談や、高岡市健康増進課の担当者から乳がん患者の現状等の説明を聞いて、知識が深まった。
- ・ 共催団体（高岡市・株富山グラウジーズ・高岡市ヘルスポランティア協議会・乳がん患者会）や協賛団体（財北陸予防医学協会・国際ソロプチミスト高岡・株カーブス）など、乳がん対策に関わっておられる様々な立場の方の意見を聞くことができて良かった。
- ・ 講演をお聞きして、早期発見の大切さを改めて実感しました。
- ・ 実際に乳がんを患われた方のお話を聞かせていただき、これまで乳がんは自分には関係ないと思っていたことに気づくことができた。発病する前に学ぶことができて、本当に良かった。これからは他人事とは思わず、身近な問題として、周りの大切な人達にもここで学んだことを伝えたい。

今後の予定

11月7日(月)19:00～20:30 イオンモール高岡 2階イオンホール

講演「最新の乳がん治療」

講師：澤崎邦廣医師(高岡市民病院院長)

シンポジウム「乳がん検診を受けよう」

パネリスト：患者会・ヘルスポランティア・保健師・Nプロ

同時開催：がん検診についての展示



8/6七夕会場にてグラウジーズとピンクリボンキャンペーン

グラウジーズの試合会場にて、ピンクリボンキャンペーンを行います！試合もキャンペーンも応援してね！

試合日 11月27日(日) 開場 11:30 試合開始 13:00 会場 高岡市竹平記念体育館

「原子力政策の見直しを求める富山行動実行委員会」
世話人 宮崎さゆり

「原子力政策の見直しを求める富山行動実行委員会」は、原発問題で活動している団体と個人をつなぎ、一緒に行動することを目的に、福島第一原発事故の一ヶ月後に組織されました。私たちの活動の特色は、健全な民主主義の実践である「非暴力直接行動」を主軸として、街頭に出るアクションに力を入れていることです。

参考として、短・中期活動計画に沿って実施したアクションを列記します。

- ・4月10日 脱原発緊急行動 in 富山「やっぱり原発なしで暮らしたい！」
- ・5月11日 県知事と北陸電力株式会社（以下、北電）社長への申し入れ行動
- ・5月25日 北電からの返答日アクション
- ・5月26日～6月10日 第一次北電本社前ランチタイムアピール
- ・6月11日 シフトエネルギー脱原発サウンドデモ in 富山
- ・6月13日～28日 第二次北電本社前ランチタイムアピール
- ・6月29日 北電株主総会門前アクション
- ・7月6日～現在 第三次北電本社前ランチタイムアピール「水曜脱原発コミュニティカフェ」
- ・7月初旬 「脱原発政策実現全国ネットワーク」による国会議員へのアンケート回収に協力
- ・7月21日 菅首相記者会見に対する見解表明
- ・7月24日 金沢の「さよなら志賀原発パレード」に参加
- ・8月11日 県の防災・危機管理課との懇談会

上記の「北電本社前ランチタイムアピール」は継続中です。その目的や内容を紹介し、私たちの活動についての理解を深めていただければと思います。

■「北電本社前ランチタイムアピール」

1. 目的

北電社長への申し入れに対する返答が5月25日に北電本社でありました。それを私たちは不服として、門前アクションの実施を北電側に通告し、ランチタイムアピールは始まりました。当初は「期間を区切って実施してみたら、可能ならば継続しよう」ということで始まりましたが、実際行ってみたいこのアクションの効果がわかり、多数の協力で今日まで続いています。

このアクションの最大の目的は、北電に志賀原発の廃炉と自然再生エネルギーへの転換を要求する市民（消費者）の存在を忘れさせないことです。また、定期的に脱原発団体と個人が北電本社前に集まることで、情報交換やフットワークの軽さを維持する目的にも適っています。

2. 内容

第一次と第二次の北電本社前ランチタイムアピールは、北電社員が社外に出てくる週日ランチタイムにあわせて、門前でマイクアピールや歌、ピラ配布、署名活動、横断幕・メッセージボードの掲示を実施しました。

北電株主総会後に始まって継続中の第三次ランチタイムアピールは、水曜日のみの実施となっています。内容は今まで実施していたことに加えて、「脱原発コミュニティカフェ」と名づけてテーブルとイスを木陰に設置し、コーヒーやお菓子の提供の他、放射線の測定もしています。現在のカフェの常連さんは10名ほどで楽しく集っています。

3. 反応

北電側の反応が一番気になりますが、第一次と第二次では毎日、北電地域広報部の担当者が私たちの様子を見にきていました。しかし、第三次になると窓から私たちを眺めている様子はありますが、はっきりとした監視の動きはなくなりました。私たちとしては担当者が出てきて言葉を交わして欲しいと思っています。

北電社員の皆さんはピラを一切受け取らず、署名にも応じませんが、横断幕やメッセージボードを横目で読み、アピールの声を聞いて前を歩いています。「内部告発受付中」の看板も出していますので、それに対する意識はオンになっていると思います。

無視して通り過ぎる通行人もいますが、取組んでいる「さよなら原発1000万人署名」等に積極的に応じる人や情報を得て訪れる人もいて、北電前では毎回うれしい出会いがあります。ランチタイムアクションの報告はシャキットのMLに流しているので、読んでおられる方もいると思いますが、ブログにもアップしているので覗いてみてください。

<http://peacewalk.seesaa.net/?1310600140>

4. 今後の予定

私たちのランチタイムアピールは、北電が志賀原発の廃炉を決定するまで継続させたいと思っていますが、とりあえず雪が降るまで実施するという意見もあります。私は経験からこのような非暴力直接行動の効果は確実に現れると確信しています。しかし、この行動は一人ではなかなか実施することが難しいので、多数の協力者がいなくては継続させることはできません。継続させるためにも脱原発の意思をつなぎ、連帯の輪を広げていきたいと思っていますので、シャキットの皆さんの参加も期待しています。

どうぞよろしくお願いいたします。

分科会では活発な討論、全体会では「大空へ飛べ」に感動!

塚本協子さんと「別姓訴訟を支える会・富山」が壇上からアピール

富山県母親大会運営委員 本木 英子

“第51回富山県母親大会”が7月24日(日)ウイング・ウイング高岡で開かれ、540人が参加しました。午前中は原発、子育て、ジェンダー平等、認知症、TPP(環太平洋連携協定)など、8分科会が開かれました。120人が参加した「福島原発から何を学ぶか」分科会では、日本科学者会議石川支部幹事の児玉一八さんが資料を基に分かりやすく説明。「志賀原発に何か起こったらと不安」の質問に「富山に情報が入るようすることが大切。小さな事故も見逃さずに監視しよう」と呼びかけました。「ジェンダー平等社会へ」の分科会はシャキット会員でもある富山国際大学准教授の彼谷環さんが助言され、別姓訴訟原告の塚本協子さんが訴訟に踏み切った経緯を訴えました。参加者の多くがシャキット会員で熱心に話し合われました。

午後からの全体会は、高岡の教師と子どもと親で組織され25年の歴史を持つ「大空へ飛べ」の元気なミニステージで開会。記念講演は北陸学院大教授の金森俊朗さんが「人と人とのつながりが生み出す希望」と題して、子どもの声に寄り添うことの大切さを豊富な実践を基に話されました。午前中の分科会報告の際、「別姓訴訟を支える会・富山」の代表が原告塚本協子さんと共に登壇し手を振り会場のみんなに訴えました。大会アピールにも国連女性差別撤廃委員会が選択的夫婦別姓を含む民法改正など厳しい勧告が出されていることを入れ塚本さんの訴訟を応援しました。

第3分科会「ジェンダー平等社会へ」に参加して

山下 清子

彼谷さんは、いつもながら綿密なレジュメに沿って「ジェンダー平等」について説明された。男女平等社会を目指した取り組みは、国連・国・そして県や市町村において進められてきているが、私たちの活動とつなげていくことが重要だ。参加者の中で、国土交通省につとめている女性(公務員)から組合の仲間が減り話し合う機会が少ないという発言があった。私は、「ぜひ、シャキットのような市民グループとネットしていきましょう」と応えた。イベントの時だけでなく、いつもの活動の中で女性たちが抱えている問題について話し合い連帯していくことが大事だと思う。

今年は高岡が会場となったので参加しやすかった。実行委員長の松田理恵子さんをお願いして、Eネットの広報についても協力していただいた。このような交流を今後も続けていきたいと願っている。

→◆左 10 P. より続く



北陸電力本社前の「水曜脱原発コミュニティカフェ」の様子、[写真]左:マイクアピール中、右:木陰に集う参加者たち

【お願い】・・・全国的に展開中の「さよなら原発 1000 万人署名」の用紙をシャキット情報に入れました。署名をお願いします。さらにご家族やご友人の方々にも署名をすすめてください。

その後、署名用紙(1枚に記載可能な10名分に満たなくてもOKです)を取り扱い団体となっている「原子力政策の見直しを求める富山行動実行委員会」へ郵送していただくか、手渡しなどで回収にご協力いただければ幸いです。脱原発社会を未来の子どもたちに手渡すために、今私たちのできることは全てやりましょう。

お手数をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

《会計報告》

2011年7月31日現在

【収入の部】	【支出の部】
<ul style="list-style-type: none"> ・5月より繰越 17,882円 ・会費 82,000円 ・寄付 2,000円 ・前年度政プロ活動余剰金 2,970円 ・チラシ折り込み料 1,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャキット情報 123号送料 6,960円 ・シャキット情報（製版等） 3,110円 ・シャキット情報（宛名ラベル代） 1,700円 ・サンテフェス 2011 WS 経費 2,000円 ・ " 展示物印刷・制作費 7,000円 ・消耗品（コピー代・ファイル等） 5,623円 ・研修費（講師料等） 13,667円 ・8月へ繰越 65,792円
収入の部合計 105,852円	支出の部合計 105,852円
++上記とは別に「特別会計」として 30,000円あります++	
会計 山口	

編集後記

124号編集長 村藤美枝子

8月号に、多岐にわたる活動の原稿を寄せていただいた皆さん、
ありがとうございます。

猛暑、記録的な豪雨のこの夏、3・11東日本大震災による福島原発事故の本質を問い、脱原発を訴える多くの取り組みがありました。

7月23日の「富山県地方自治研究会」で、京都大学原子炉実験所の今中哲二助教は、「1986年のチェルノブイリ事故で、周辺30kmで、村や町がなくなり地域社会が消滅した」「福島事故の経過の中で、周辺モニタリングデータなど多くの情報が隠されてきた」「世界で最たる地震多発の日本の中で、原発を建てられる場所など、どこにもなかったにもかかわらず、54基もの建設にお墨付きを与えてきた国、そして電力会社の責任の重大さ」「ひき続く放射能汚染の中で、とりわけ感受性の強い子どもたちの被曝を最小限に」等々、多くの資料を提示しながらの講演でした。

原子炉実験所という場所で、その危険性を研究・警告し続けてきた今中助教の言葉のひとつ、ひとつが、今の日本の危機的状況を物語っていると感じました。

そして、現地福島からの報告では、緊迫した震災時の状況とともに、「放射能を避けるために、子どもたちが家族とも友達とも離れて、全国各地の学校へ一人ずつバラバラに（兄弟姉妹は一緒）、多いところでは238の小学校へ転校している現状を、声をつまらせながら語られた柴口先生の「脱原発のために全国の仲間とたたかいたい」の決意に心打たれました。

富山においても、北陸電力が「志賀原発」の事故隠しを何度も繰り返し、「志賀原発を廃炉に」の運動が展開されています。

子どもたちの未来を、私たち大人が決して奪ってはいけない、そんな思いを新たにした夏でした。

【事務局より】

シャキットは、富山県内に住む市民が男女共同参画社会基本法を実効性のあるものとすることを目的に、ネットワークして活動しているNPOです。購読会員は県外にも多く、いろいろな活動に関わっている人が個人として自主的に参加しています。シャキット以外の活動については、「投稿」として書かれています。何か不明な点やご意見がありましたら、事務局まで連絡ください。

シャキット情報

NO. 125

2011. 10. 16 発行

編集 事務局

出 会 い

山下 清子

3月11日におきた東日本大震災の後、多くの人たちが生き方や政治について考えるようになったことと思う。これまで知らなかった人たちとの出会いが増え、新聞やテレビだけでなくインターネットから情報を得ることが多くなってきた。いいことも悪いことも全ての出会いは必然であり、自分が想っていることに会うものだという。

私は、これまで「女性学」に出会った時やノルウェーを訪れた時など、いろいろなカルチャーショックを受けながら生きてきたが、ここで放射能問題に出会ったことは逃れられない運命だと思う。残り少ない人生・・・暮らし方が問われている。

先日、南砺市利賀で行われた「ローカルサミット」に参加した。これは2008年に開催された「洞爺湖サミット」に触発された市民の有志(志民)が、地方から発信しようとしたのだ。今年が4回目となり、全国から200名以上の参加者があった。

事務局を担当していた人から、「Nプロジェクトひと・みち・まち」(Nプロ)の活動を話してほしいと言われて、よく解らずに参加した。そして、第7分科会「行政と志民をつなぐ新たなセクター」で、311以後のまちづくりについて話し合った。シンクタンク・行政・NPO・企業など異なった立場の人たちで、各々が自立して協働する方法について議論した。印象に残ったのは、役所や会社を辞めてまちづくりのための組織をつくり、国や自治体に政策提言している人たちの話だった。新しい動きがはじまっている。

また、サミットのオープニングでは、生態系・農・循環・祈りなどのキーワードがあげられていたが、納得して受け入れることができた。10年前だったら、理解できなかったことだと思う。交流会でも、初対面の人たちとの意見交換を楽しむことができた。そこで、まったく偶然に「高岡を知りたい。高岡を東京の人たちに紹介したい。」という女性と出会い、急遽、翌日の予定を変更して高岡のまちを案内した。高岡の住人でない人と共に高岡の良さを探してまわり、まちづくりについて相談したのである。現在、Nプロで取り組んでいる「シビックプライド」そのものを体験することとなった。

9月に開催された「Eフェスタ2011」のワークショップで初参加された若者たちが、シャキットの活動に関心をもたれたように、年代や立場の違う人たちと話し合うことの大切さを痛感している。11/13の学習会(同封チラシ参照)での出会いにも期待しているが、一番おもしろいのは新しい自分との出会いだ。

出会いも別れも摩訶不思議なものであるが、これこそ生きている楽しみだと思う。

「海中の光あつめて望の月 世以己」

《11月・12月の予定》 皆さん、集まりましょう!!

- | | | |
|-----------------------|--------|----------------------------|
| 11月13日(日) 11:00~12:00 | 全体会 | 高岡市男女平等推進センター 交流室 |
| 11月13日(日) 13:30~16:00 | 第2回学習会 | だから原発は「いらない!!」 // 会議室 |
| 12月17日(土) 10:00~ | 全体会 | サンフォルテ団体交流室(午後 情報126号印刷発行) |

連絡先 Tel&Fax : 高木睦子(076-423-8005)、津本孝子(0766-56-4588) 事務局 m.aoki@alpha.ocn.ne.jp

活動場所: サンフォルテ(富山市湊入船町6-7) 076-432-4500

高岡市男女平等推進センター(高岡市末広町1-7ウイング・ウイング 高岡 6階) 0766-20-1810

会費(年間2000円、情報・通信費等)1部200円 振込み先: 郵便振込 00780-9-75052 シャキット富山35



8月～9月全体会報告



経過報告

日	付	活動内容
8月	1日	県男女参画・ボランティア課長との面談
	20日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	21日	8月全体会・情報No.124 発行(サンフォルテ)
	24日	Eネット定例会
	28日	「Eフェスタ 2011」開会
	〃	〃 「選択的夫婦別姓あなたは賛成・反対!？」開催
9月	1日	Eネットと「市長との話し合い」(高岡市推進センター)
	3日	EフェスタWS「北欧に学ぶ」開催
	4日	〃 メイン事業「被爆ピアノコンサート」
	16日	9月全体会(高岡市男女平等推進センター)
	〃	「働き方P.」今後の取り組みについての話し合い
	24日	「別姓訴訟を支える会・富山」ミーティング
	28日	Eネット定例会
	30日	サンフォルテへ「次年度サンフェス上映会について」申入れ

議題

- 2011年度第2回学習会(高木、津本、野原ひ、山口、)
「高岡市男女平等推進センター 学習支援講座」
演題(案)「原発ってなんだろう？」 於・高岡市男女平等推進センター会議室
11/13(日)13:30～16:00 講師 淡川 典子さん(元富山大学教育学部社会科教育教員)
- 「働き方プロジェクト」(高木/青木/内山/北条/中林/村藤/橋本/山本)
・9/16 総括と話し合い→首長との面談・労組との連携は難しい/今年度中に、次の取り組みを計画する
- 県への要望 8/1(月)10:00～県庁の会議室で、男女参画・ボランティア課長と面談(P.6・7報告)
課題 ① 国の男女共同参画推進計画(第3次)を受けて、県の取り組み状況と成果について
② サンフォルテと県の連携について ③ 公務非正規職員の実態と対策について
- サンフォルテ関連
・サンフォルテフェスティバルについて、2点要望する。
① 来年のシネマに、山川菊枝生誕120年記念事業として製作された「姉妹よ、まずかく疑うことを覚え」の上映会を提案する
② 開催期間を2日間ではなく、1週間くらいとする
・サンフォルテDV防止講演会(11/11)の協働団体登録をする
- 「別姓訴訟を支える会・富山」(山本/塚本)(P.6・7報告)
・9/28(日)「Eフェスタ2011」WSを開催する(サンフェスWS同様)
・10/5(水)16:00～ 国賠訴訟第二回口頭弁論 東京地裁103号法廷
- 「Eネット」(高岡センター登録活動団体ネットワーク)(津本/山下)
・「Eフェスタ2011」ワークショップについて(P.3・4・5報告)
9/3(土)「北欧に学ぶ～一人一人が大切にされる社会をめざして～」をテーマに話し合う
・高岡市民活動情報ポータルサイト「サボナビたかおか」に登録する(津本/山下)
・10/30(日)11:00～「男女平等EXPO 高岡2011」開催 「社会(みんな)で子育て」

★センターとEネット との学習会開催★

- 第1回 9月1日(木)14:00～
Eフェスタ 外部主催「協働」学習会
第2回 9月21日(水)19:30～
DV対策学習会
第3回 10月12日(水)13:30～
「女性と防災」学習会

*12年度～後期事業計画&DV対策基本計画(仮称)策定に向けて

【お願い】シャキットメールで、件名頭に「●」がついている項目は、会員に是非知ってほしいことです。
みなさん、今後お見逃しのないように注意してください!

「Eフェスタ2011」活動報告

シャキット ワークショップ

“北欧に学ぶ ～一人一人が大切にされる社会をめざして～”

のほら ひとみ

このワークショップを行うきっかけは、もう三年近くも前に聞いた、映画「ミツバチの羽音と地球の回転」でおなじみの、鎌仲ひとみ監督の講演だった。エネルギー政策をはじめとして、スウェーデンのシステムが、あまりにも日本と違うことに驚き、もっと知りたいという気持ちが強くなった。エネルギーや福祉など、断片的な情報は入って来るものの、全体としては、どんなだろう？その気持ちが今回の「北欧の全体像を（浅くても、とりあえず）とらえてみたい」という企画につながった。北欧の専門家でも行った事もない私だったけれど、北欧のことをかじってみると、「国としての考え方が、日本と北欧ではずいぶん違うのではないか？」と考えさせられた。

例えば、北欧では、弱者が大切にされ、障害者を持つ家庭は、様々な方法でサポートされる。「子どもの将来で不安なこと？ありません。この子はこの子の道を行くでしょう」、とある母親は言う。これは特別なケースではなく、誰もが障害者になり得る中で、弱者となった人をどう守るか、という視点が強く、それは最終的に自分を守ることでもある。充実した福祉と、助け合おうとする精神。どの国も様々な問題を抱えているが、どんどん政策を変えつつ対応するその柔軟さ。北欧に関係する本を読み進むうち、そのシステムのあまりの違いに、何度も驚かされた。日本はというと…表面的に豊かでも、弱者切り捨て、基本的に競争社会の面が意外に強いのではないかと、思う。国民は金持ちでも、「本当に人間が大切にされているのか」、という疑問が残る。それは今回お話頂いた、福祉を専門とされる竹川慎吾さんが、日本の福祉予算は先進的な他国と比べ、大幅に少ない、ということを指摘されたことから伺える。北欧では貯蓄はほとんどされない。人生で最大の終着点の心配をする必要が感じられないためだ。



能登貴文さんには、北欧に行かれた際の体験を話して頂いた。あるビアハウスでの一般男性との話。「自分は、25%の消費税を誇りを持って支払っている」等話されたという。人々の政治への関心はとても高く、どこでも政治の話は当たり前。日本では、お酒の場で政治の話、というと「白ける」、とさえ思われそう。

町で語ること、議論することで、政治に反映させている北欧。幸せ度が高いこれらの国々について、(今回シャキットの「高岡Eフェスタのワークショップの枠組み」を使わせてもらい)様々な人の手を借り、温めてもらいながら、当日を迎えられたことを「言いたしっぺ」としては、本当に感謝しています。心強い女性達に助けられながら、遠い「幸せ度の高い国」の、ほんの最初の方のページをめくり始めた思いがする。知る、という、ただそれだけで、人の意識が変わることだってある。それぞれに対応して頂いたシャキットのみなさん、竹川さん、フェイスブックで呼びかけて頂いた能登さん、影日向に支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。また、新たな機会を探したいと思いつつ。感謝をこめて。.....→次ページに「概要とふりかえり」。

《ワークショップの概要》

(1) のはらさんより、「北欧と日本と何がちがうのかを知ることによって、日本がわかるのではないか」と提起。

【教育】 「男女平等の本」が教科書に。男女の賃金格差が少ない。

【民主主義】 何事も話し合いで決定していく北欧のシステム

【政治】 地方議員の報酬が低い。情報の透明性・・・公文書は市民に公開

【福祉】 施設が充実している。障がい者、高齢者などに手厚い支援

(2) 竹川先生より、社会保障給付費が国民所得に占める割合の各国比較のグラフが提示される。

- ・割合の高い北欧諸国に対し、先進国と言われながらも日本は低福祉社会であることが明確に。
- ・スウェーデンも20世紀初めまでは、貧しくて老人を死に追いやることが慣習としてあった。
- ・スウェーデンモデルと呼ばれる「①包括的社会福祉システム ②労働市場が平和的・協調的 ③政治課題解決には合意形成を優先」の方式で、1960年代には今日の社会保障の根幹をつくった。

(3) フリートークより

- ・個人レベルで（北欧の良さを）取り入れていくことは？ 私たちにできることは？
- ・①事実を知ること⇒ ②知った事実を伝える（訴える）⇒ ③賛同した仲間と共に行動する。
- ・行政が市民に意見を求めてきたときが、チャンス⇒市民が条例をつくりあげることが大切
- ・条例づくりは将来の社会をつくること⇒若い人に参加してほしい。
- ・コミュニティハウス“ひとのま”では、子どもから大人まで、自分たちでできることを自由に企画。
【やりたいことを言う⇒共感する人がいたら実行する。】 まず、自分たちでできることをやっていく。
- ・デンマークでは、政治家を支える市民がいる。居酒屋で政治論争。
重税感がない⇒ 社会福祉にお金を使いたい、政治を監視する目がある、
女性の社会参画システム⇒ 弱者に優しいシステム
- ・ノルウェーでは、小学生から政治に関わる。男女平等の教育、模擬選挙、クォータ制、比例代表制
- ・北欧視察をして、北欧に学ぶことは大切だと思う。
生きていくために大切な医療・福祉・教育を政治の中心にし、予算の65%を配分。(高岡市約30%)
- ・政治に対する信頼、税金の使途が国民にわかるように。目的が明確だと国民は納得⇒ 目的税
- ・今できることは、学生のうちにこのような勉強会に参加する。現地に行ってみたい。

《参加者の振り返りシートから》

- ・日本はシステムを変える必要があり、遅れている。平等な社会をめざして、まずは声をあげること。
- ・どうしてクリーンな政治が実現できるのか。その背景や国民が政治参加に積極的であることなど、歴史的側面や国民性といった視点で勉強できてよかった。
- ・社会福祉重視の姿勢、非常に勉強になった。日本の課題・方向性を真剣に考える良いきっかけになった。
- ・北欧の良さは教育と政治にある。家庭や学校で戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えていく必要がある。震災や原発事故を通して、今どういう国をつくっていったらよいのか考えることがとても大切だ。
- ・自分自身の当事者意識の足りなさに気づいた。自分で考え自分の意見を持ち、話し合うことから始める。
- ・市民の意識が活発化し、内圧が高まれば、何か行動に移っていく気がする。この会場では、活発な意見が飛び交っていて、次の行動が起こりそうだ。

*他、北欧に行ってみたい、「北欧に学ぶ」続編を望む声も複数あり。お陰で充実したワークができました。

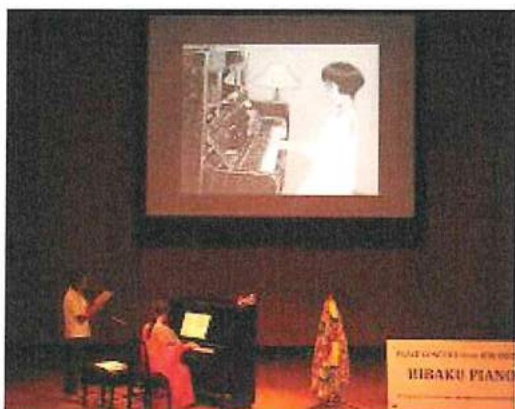
メインイベント 被爆ピアノと平和のコンサート

津本 孝子

E ネット主催の「Eフェスタ 2011」メイン事業で、被爆ピアノによる池邊幸恵さんのコンサートがありました。最初にピアノの調律師矢川光則さんのお話がありました。広島に原爆が落ち、100年間草木も生えないだろうと言われた焼野原から1.8kmという至近距離にありながら、奇跡的に元の形をとどめて生き残った1台のピアノがありました。60年後、矢川光則さんの手で修復され、被爆ピアノとしてすばらしい音色を取り戻しました。

彼は、被爆ピアノの音色を全国の多くの人に聞いてもらうことで、平和を考えるきっかけにできないだろうか考えたそうです。素晴らしい取り組みです。

次に池邊さんのピアノコンサートでした。ヒロシマの惨劇を、イソップさんの詩の朗読と歌と映像とピアノ演奏で見事に訴えられた素晴らしいコンサートでした。被爆ピアノは、ニューヨークへ行ったものと、「ミサコのピアノ」と2台ありました。「ミサコのピアノ」は、象牙でできていたので、いまでもとてもやわらかい、きれいな音色でした。



ノーモア福島、9.11のテロの欺瞞性、めざそう北欧の暮らし、守り抜こう日本国憲法とテーマに合わせた素晴らしい映像と彼女の主張にそった多くの美しい演奏が繰り広げられ、とても感動しました。多くの小中学生、若者にもぜひ聞いて欲しいコンサートでした。

平和と男女平等をめざす市民団体が行政の支援を受け、自分たちで作り上げた素晴らしい集会でした。

ワークショップ「男女平等・共同参画と市民活動(協働)」

開催：9月1日 主催：高岡市男女平等推進センター
橋本 悠紀子

上記のワークショップに参加した。テーマの副題は「プラン推進上の問題解決のために」である。講師の(財)新潟県女性財団理事長大島煦美子(おおしまくみこ)さんは、この財団の設立時の経緯から話を展開された。政令都市の新潟市は高岡市と同じ公設公営であるが、県は公設民営で運営されている。

設立に関して、当時県立女子短大で教鞭をとっていた女性学の金井淑子さんと連携し、県民に呼びかけ5000万円を集め、同額の5000万円を県が支出、基金一億円で設立するなど、興味深くお話を聞いた。

グループワークは、5つの班になり各グループでプラン推進の問題点を話し合いまとめた。その後高岡市役所の各部局の一覧表をもとに、どの部局が担当になるのかなど、具体的に仕分けをしたが、とても斬新な方法だった。

「協働」とは、主体的にまちづくりに参画すること。そのために「共有」「対等」「理解」「公開」が欠かせないことなどを含め、「男女平等・共同参画を阻害することへ、日常のあらゆる場面で一人ひとりが敏感な視点を持って気づきましよう。」とまとめられた。

「シャキット富山35」 展示 男女平等を求め続けて・・・ 「10年の歩み」



「別姓訴訟を支える会・富山」 久米 有子

8月28日(日)、高岡市男女平等センターにて、Eフェスタのワークショップ「選択的夫婦別姓 あなたは賛成？ 反対？」を開催しました。主催は「選択的夫婦別姓を考える会・高岡」、「別姓訴訟を支える会・富山」が共催しました。

30名近い参加者があり、20歳代、30歳代の参加者もありました。

ワークショップでは、富山市で撮影した街頭インタビューのビデオを約20分間、全員で見た後、高岡市では初めて実施した「選択的夫婦別姓 賛成・反対を問うシール投票」の結果を発表しました。

富山県内でも、富山市を中心とする東部と、高岡市を中心とする西部では、若干異なる傾向が見られたものの、賛成多数という結果は同様でした。高岡市と富山市の結果を比較すると、女性の賛否割合は、富山・高岡ほぼ同じでしたが、男性の賛否割合は、高岡では、「わからない」46.7%と、とても多いという結果になりました。富山では「わからない」は13.3%でした。



引きつづきグループ討議を行いました。グループ討議で出た意見は、

- ◇通称使用しているが、預金口座など戸籍名でしか受け付けてもらえないものもあり、限界があり不便である。その不便さは改姓しない人(男性に多い)には理解できないかもしれない。
- ◇「誰その奥さん」と呼ばれるのは嫌。家父長制が強く残っているのを感じる。
- ◇法律の改正には時間がかかる。地道な運動が必要。
- ◇日本では女性が夫の姓に変えないといけないという意識が根強いが、法律が変われば意識も変わるのではないかと。法を変えて市民の意識も変えたい。
- ◇離婚再婚に伴う改姓の問題に直面している。自分の姓、子どもの姓をどうすればよいのか。
- ◇アメリカでは、結婚は届け出制で、姓は選択制。改姓してもミドルネームに旧姓を残すこともある。子どもの姓は親が選択し、父母の姓を両方残していることもある。
- ◇婿養子を迎えた形だったが、夫の姓に改姓した。地域と職場では旧姓で通しており、夫は地域で「〇〇(旧姓)さんの旦那さん」と呼ばれるのが嫌で夫の姓で通している。
- ◇シール投票の結果で、「わからない」を選択した人は無関心であることだと思う。
- ◇この問題は、差別、人権の問題、平和問題ともつながっている。



原告団長 塚本協子さんからの裁判報告があり、民法750条で結婚により夫婦同姓が強制されることが違憲であると訴えていること、女性差別撤廃条約6条(g)を活用していきたいと話されました。

最後に、別姓訴訟へのさらなる支援をお願いしてワークショップを終えました。

別姓訴訟第2回口頭弁論の一日は長くて…短くて…



■ロビー活動

10月5日、第2回口頭弁論の日、大雨の中を一日中フルに行動しました。

午前中、mネットに行き、ロビー活動です。衆議院法務委員会所属議員の部屋(12F~2F)を訪ね、「別姓訴訟の原告の塚本協子です」と言って、「別姓訴訟を支える会・富山」「第2回口頭弁論と報告会」のチラシ2枚を配りました。皆さん好意的で嬉しかったです。mネットの坂本さん・大澤さんの長年の苦労のお陰だと思いました。

■国賠訴訟第2回口頭弁論で争われたこと&報告会

午後4時から、東京地方裁判所(1階103号法廷)で、別姓訴訟の国家賠償請求訴訟の第2回口頭弁論期日が開かれました。以下 ○ は原告(弁護士団)

◆ は被告(国) * は塚本の眩き

* 口頭弁論が行われる前には、原告・被告は東京地裁民事部を通じて準備書面のやりとりを行っていて、口頭弁論の期日に確認・弁論が行われた。

○ 5月25日に開かれた第1回口頭弁論期日で、原告は、夫婦同氏制を定める民法750条が憲法13条、憲法24条1項、2項及び女性差別撤廃条約2条、16条1項(b)(g)に違反するとし、国が民法750条を改正し夫婦同氏に加えて夫婦別姓という選択肢を認める立法を行わないことは、国家賠償法1条1項の違法な行為に該当すると主張しました。

* 塚本協子で生き逝きたい、ただそれだけのために、多くの法の条文を使って裁判までしなくちゃならないの。当たり前のことなのに。

◆ これに対し、被告(国)は、民法750条は違憲ではなく、国家賠償法1条1項の違法性も認められないと反論しました。ただし、国際法(条約)が国家賠償法の適用上の違法を基礎づけることができるかという点については、後日主張するとしてました。

* 女性差別撤廃条約2条、16条1項(b)(g)には、自動執行力(日本の法律のように直ぐ使える事)がないので駄目っていうの。三井マリ子裁判は女性差別撤廃条約のお陰で勝利しました。

○第2回口頭弁論期日では、原告は、「被告のたてた国賠の違法性の基準は従前の最高裁判所判例の立場とは異なる独自のものである」と再反論しました。

別姓訴訟原告 塚本協子

13条は氏名権を主張、氏の変更を強制されない自由がある、同姓規制は96.3%の妻が改姓させられている現状は人権の侵害で幸福追求権に違反しているし、24条にも違反。

◆ 被告からは、「条約を含む国際法は直接個人の権利義務を規律するものではない」等の主張がなされました。

* 塚本は2010年9月2日、CEDAW委員シモノビッチさんの講演を聴いたとき「条約は宣言ではない。日本の法律と同じように使って下さい。個人の権利・義務もあります。」「条約の目的は、絶対的な平等です。」

その晩の交流会で塚本が「選択的夫婦別姓訴訟のアドバイスを！」と言うと、シモノビッチさんは「16条を使って欲しい」と答え、握手して下さいました。

これに対する原告の反論は、12月14日(水)10時第3回口頭弁論で行う予定です。竹下弁護士も弁論します。今回は、原告本人らの陳述書も提出されました。陳述書とは、訴訟当事者や関係者がこれまでの経緯や状況などをまとめて記載した書面で、証拠の1つとされています。

第4回口頭弁論は、2012年2月8日16時からです。

報告会は、これまでと趣向を変え、裁判報告と参加者(60名くらい)全員の自己紹介がありました。一人一人の来歴と裁判に寄せる思いを、直接聞けて感動。事実婚30年という初老の別姓夫婦が、25年前選択的夫婦別姓の署名活動したとき、大澤さんも一緒だったとの奇遇もありました。「立法の不作为の中村議員」と自己紹介した彼は、現在政務次官として相当努力されているご様子に心から感謝。原告Tさんの目頭が濡れていました。

最後は、お待ちかね一番のお楽しみ晩餐会です。フランス風のイタリア料理で、ひと皿ひと皿美味しいの。

私、食べるのが遅いでしょう。でもいいの。この頃、この歳で新しい味つけ・経験に出会えるんです。

神原先生の止めて下さったタクシーに乗って、長かった一日は終わりました。

DVの無い社会をめざして2011

第1回目

「DVを知っていますか?～相談室から見えてくる『DVってこんなこと』～」

とき 2011年10月1日(土) 午後1時30分～3時30分

ところ 射水市大島コミュニティーセンター 大会議室

講師 長守信子さん (高岡市男女平等推進センター相談員・社会福祉士・精神保健福祉士)

NPO法人「Nプロジェクトひと・みち・まち」から、射水市内でDV防止講座を開催したいとの相談を受け、地元でもあり協力することになりました。8月23日、地元の「エフエムいみず」に事務局長の須賀さんと出演し、表面に出にくいDVについて、射水市の過去のデータを基に話をし、参加を呼びかけました。当日は、大島地区男女共同参画推進委員の協力もあり、市民、民生委員、担当課、相談員、議員・・・と、20人余りの参加がありました。

始めに、長守さんから相談に来る人の変化や、被害者への何気ない言葉による二次被害について話していただき、その後、参加者で活発な話し合いができました。参加されていた市内の相談員からは、DVについての直接の相談件数は年間10件程度であり、相談内容に困った時は長守さんとも連携し、対応していることを話されました。私は、市内の人からのDV相談件数の少なさから、保守的な地域では、顔を知られることの不安のために相談に来ることさえ難しいのではないかと感じます。また、DV講座への参加を呼び掛けた人からも、自分の周りにはそのような人は居ないとの答えが多く返ってきたことにも驚きました。外からは見えにくいDV問題の根深さを実感することに繋がりました。 山本夕起子(射水市)



第2回目

「DVについて 法的支援を考える」

とき 2011年10月14日(金) 午後1時30分～3時45分

ところ 高岡市男女平等推進センター 会議室

講師 黒岩海映さん (弁護士)

富山県DV対策民間団体活動支援事業として第2回目の講座開催にあたり、Nプロでは事前に講師から送られてきたレジュメを見て、素晴らしい講座になることを確信しました。DV防止法についての解説は、的確で具体的な事例も交え、参加者に分かりやすいものでした。保護命令が特徴的で、そこばかりがクローズアップされる同法の別の面、通報義務・情報提供義務(6条)や、職務関係者による配慮等(23条1項)などが印象に残りました。医療関係者のDVへの深い理解が支援につながることや、関連社会資源のネットワークの大切さを改めて知らされました。

講演の後の意見交換会では、次々に現場に即した疑問や質問が寄せられました。高岡市男女平等推進センターの相談室が県西部全体をカバーするものになるような機能を持たないものか、或いは地域の連携をより強化できないか、起きてしまったDV被害への支援と防止のための教育の両方が重要、家庭内での人権のびつかりあいをどう解決するかなど、色々な意見・提案・疑問が出て、講師もそれに丁寧に答えてくださり、活発な会となりました。

今回の企画は、今年度高岡市が「DV対策基本計画」(仮称)を策定するということもあり、タイミングが良かったのか参加者40余名を数えました。また、富山県がDV防止普及啓発に取り組むことになり、社会的関心も高まっているようで、マスコミの取材が4社もありました。

3人の子育てをしながら弁護士としてDVや障がい者の問題に取り組んでおられる講師の爽やかでエネルギッシュな話し方が、参加者に力を与えてくれたように思いました。

須賀泉美(Nプロ事務局長)



「アルツハイマーデー記念・介護保険シンポジウム」に参加して

《9/18 認知症のひとと家族の会主催》

高木 睦子

介護保険に「地域包括ケア」という新システムが法制化されました。内容は、従来の施設、有料老人ホーム、グループホーム、高齢者住宅、自宅（持ち家、賃貸）に関わらず、「おおむね30分以内（日常生活圏域）に生活上の安全・安心・健康を確保するための多様なサービスを24時間365日通じて利用しながら、病院に依存せずに住み慣れた地域で生活を継続することが可能」というものです。

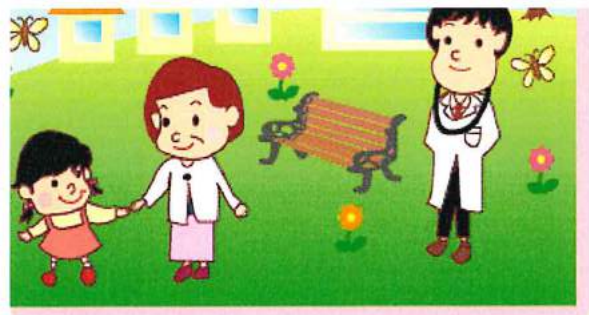
法律の概要を聞けば、誠に理想的なのですが、「多様なサービスを、24時間、365日」切れ目なく行うにはなんと言っても、介護労働者の確保が第一です。しかし、現状の介護職の年収・平均250万円であり、賃上げもままなりません。ワーキングプアの一員です。それ故、介護労働者の離職率は、他の職種より2~3%以上高いのが実態です。一方、'09年度の特養入所待機者が42万人を超えており、人的需要と供給関係は全く乖離しています。待機者42万に対して政府は、高齢者居住安定確保法＝都道府県ごとに、安否確認と生活相談のサービスがあるバリアフリー構造の高齢者向け賃貸住宅の登録制度を創設します。2011年度当初予算に、サービス付き高齢者住宅を建設する際に1戸あたり100万円までを補助するなど支援措置として325億円を計上。年間3万戸の整備を目指しており、特養1床あたり350万円の国庫補助より安上がりだと計算しています。

「地域包括ケア」の導入は、2025年度に団塊の世代が一斉に後期高齢者となることから、医療・介護費用の削減が一番の目的であり、要支援や要介護度1~2の軽度の対象者を介護保険から切り捨てていくことになります。

そして、『地域の持つ「自助＝セルフケアのとり組み、互助＝住民主体のサービスやボランティア活動、共助＝医療保健サービス、公助＝従来の介護保険サービス」など数多くの資源が存在しており、それらを有機的に連動して提供されるようなシステム構築が検討されなければならない』と。しかし、仮に地域にそんな潜在力があると仮定して実際地域を動かすコーディネーター役を誰が担うのか何も示されていません。

シンポジウムの発言者・地域支援センターやホームヘルパー協議会、ケアマネージャーさんからも一様に、現在の人手不足と処遇改善、業務に見合う収入の確保、そして、定着率が低ばかりに仕事の継続性や積み重ねができない実態が切実に訴えられていました。

富山のように持ち家が多い地域には合わないシステム。地域のカ、ボランティアに介護が任せられるのか。儲け優先の民間業者をどんどん介護に参入させることが高齢者の安心・安全のつながるのか疑問、問題点が多すぎます。長生きすると言われていているように思います。とどのつまりは、「民間活力の活用」と言う、「新自由主義経済」体制への逆戻りに過ぎないのではないかと思います。



「さよなら原発5万人」集会・パレードに参加して

原子力政策の見直しを求める富山行動実行委員会

宮崎 さゆり

9月19日(月・祝)、明治公園での「さよなら原発」の集会とパレードに参加しました。参加者は主催者発表で6万人。富山の市民グループ13名も県平和運動センター準備のバス3台に乗り込み、総勢120名ほどで行きました。

東京明治公園は人・人・人でパンク状態。山手線の朝のラッシュ状態のようでした。集会のオープニングコンサートで「寿(kotobuki)」の沖縄風メロディが会場に流れ始まった。オピニオンリーダーたちの発言は残念ながら、よく聞こえませんでした。発言者は鎌田慧、大江健三郎、落合恵子、内橋克人、澤地久枝、フーベルト・ヴァイガー、山本太郎、武藤類子のみなさん。家に帰った次の日に、インターネットでしっかり発言を聞き、心が熱くなりました。

何しろ大勢の人数のため、パレードが始まってもなかなか出発できず待機状態の私たちでした。その間ステージ上ではパレード送り出しコンサートがあり、ランキン・タクシー、ナラカズヲ、制服向上委員会の音楽を聴くことができました。特に制服向上委員会には大拍手が湧き起こり、若い彼女たちのメッセージがこめられた「ダッ！ダッ！脱原発の歌」で気合が入りました。

ようやくパレードが進み出すと、私たちが歩いた「Bコース」(1.8キロ)の最終地点「代々木公園」へとノロノロ前進。警察は多かったのですが妨害などもなく、私たちのグループはスムーズに原宿駅前を通過して最終地点に到着しました。そこには各地からバスが集結。中でも窓ガラス1枚毎に大きな文字でスローガンを張った福島からのバス(10台以上)に注目。やはり、思いが半端ではありません。連帯の気持ちを送りました。

歩きながら横浜から参加された若いお母さんグループと情報交換できてよかったです。学校給食への横浜市の対応を知り、放射能と向きあって生きなければならぬ状況は、日本国内どこでも同じだと感じました。

やっぱり、日本の東京でこれだけの規模の集会・パレードはめったにないことだと思います。ワシントンDCに住んでいたとき、イラク戦争反対の10万人から50万人規模のデモに参加しましたが、今回の集会・パレードにも人間エネルギーが充満し、参加して元気をもらいました。

東京でもらったエネルギーを富山で活かそうと、北電本社前の水曜ランチタイムアクションに加えて、以下のようなアクション計画を立てました。

- 10月18日(火) 石川県知事への要望書(第2回目)提出
- 10月27(木)～29(土)10時～15時 「福島の人たち100人の経産省前座り込み」に連帯して座り込みアクション(県庁前噴水公園)
- 11月27日(日)10時半～12時半 「医学博士・崎山比早子さん講演会」放射能の身体への影響(県民会館302会議室)

みなさん、共に行動しましょう！

私たちは脱原発への動きを止めるわけにはいきません。いろんな人たちによって続きます。諦めることなく、風化させることなく、続けなければなりません。子どもたち、孫たちに原発のない未来をわたすために、連帯して進みたいと思います。

シャキットの皆さん、先にお届けした署名への参加、上記アクションへの参加、どうぞよろしくお願いいたします。



「福島」から日本が見える ～原発事故が教えるもの～ を終えて

「福島」から日本を考える実行委員会
実行委員長 道永 麻由美

10月9日（日）、皆様のお陰をもちまして、無事、シンポジウムを盛況に終了することができました。ありがとうございました。長時間に渡りましたが、講師の方々も、参加されたみなさんも、一緒によくぞ頑張ったという感じがいたします。

私は、この「福島原発事故」によって、はじめて日本に54基もの原発があることを知った「愚か者」です。

2011. 3・11の「福島原発事故」は世界の歴史に刻まれる人災です。その「福島」の「現実」を正しく認識することが、すべての第一歩だと思います。海老澤徹さん、広瀬隆さんのお二人の、それぞれの立場で語られた「福島原発事故の真相」は、真実を知らされていない私たちにとって、得がたいものだったのではないかと思います。

しかしながら、あれから7ヶ月、まるで何もなかったかのように時が過ぎていきます。広瀬さんも仰るように、「真実」を伝え、広めましょう。

「真実の力」を信じ、正々堂々と。

全ての人に「真実」を！

そこから必ず何かが生まれると思います。



最後に広瀬さんがパワーポイントで、メに引用された言葉を拝借します。

“ なせば為る、成さねば為らぬ何事も

成らぬは人のなさぬなりけり。 上杉鷹山 “



私はこれを機に、「愚か者」と決別したいと考えています。ローマは1日にして成りません。死ぬまで「愚か者」かもしれませんが、頑張りたいと思います。

どうか、みなさまのお力添え、今後共よろしく、お願いいたします。

《会計報告》

2011年9月31日現在

【収入の部】		【支出の部】	
・7月より繰越	65,792円	・シャキット情報 124号送料	7,680円
・会費	22,000円	・シャキット情報（製版等）	3,300円
・寄付	5,000円	・シャキット情報（封筒・用紙代）	2,100円
・EフェスタWS助成金	10,000円	・EフェスタWS講師料(2人)	8,000円
・チラシ折り込み料	2,000円	・ " 資料・印刷代	6,022円
		・ " 駐車券	2,000円
		・10月へ繰越	75,690円
収入の部合計	104,792円	支出の部合計	104,792円
++上記とは別に「特別会計」として 30,000円あります++		会計 山口	

ご参加くださ〜い!

シャキット第2回学習会 だから原発は「いらない!」

と き: 11月13日(日) 13:30~16:00

と ころ: 高岡市男女平等推進センター 会議室

講 師: 淡川典子さん(元富山大学教育学部社会科教育教員/今日まで、志賀原発
運転差し止め訴訟と関わり、また行政に対する意見を述べ続ける)

* 淡川さんのお話と、質問も含めたディスカッションを行います *



編 集 後 記

125号編集長 山口 和子

福島原発事故による放射能汚染が各方面で顕在化する中、テレビインタビューを受ける人々の多くが、「何を信じたらいいかわからない」「早く判断できる基準を示してほしい」と言う。「安全神話」に騙されたというのに、まだ懲りずにあなた任せで、自分で考え判断することを放棄し続ける日本人の情けない姿である。

今回 EフェスタWS「北欧に学ぶ」に関わる中で、心に残ったのが「政治に対する本気度」という言葉だ。【日本…政治に対する「不信」でなく「無関心」なのだ。……日本人は被支配体質…誰かが何とかするだろう。】(資料「世界一幸福な国デンマークの暮らし方」千葉忠夫著より)

先のWSは、これまでの日本人の在り方に疑問をもった人たちが、少しでも前向きに生きたい、何かヒントを得たいと集まったのだと思う。熱心な話し合い、終了後も参加者同士での情報交換が続く。開始直前まで不安がいっぱいだったが、やってよかったと充実感を味わうことができた。

Eフェスタでは、シャキット会員が個人的に担当したWSが多数あり、1週間毎日参加したいくらいだった。いずれも新たな学びや気づきの場、「自分で考える大人になるための市民の学校」となった。3コマ参加したが、それぞれ大変充実していてよかった。紙面の都合で紹介しきれないのが残念だ。また、今回寄せられたいずれの投稿も、信頼できる情報を少しでも多くの方と共有し、次の行動へとつなぐための貴重な活動報告である。

シャキットでの研修会や活動が、少しずつ行政を動かす兆しも見え始めている。南砺市まちづくり条例策定委員会でクオータ制が取り上げられたり、高岡市のDV対策・支援基本計画づくりにも役立ったり、会員の力・果たす役割は益々高まってきていると思う。